



## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容(3)

浅野, 慎一

---

**(Citation)**

神戸大学発達科学部研究紀要, 4(1):109-138

**(Issue Date)**

1996-09

**(Resource Type)**

departmental bulletin paper

**(Version)**

Version of Record

**(JaLCD0I)**

<https://doi.org/10.24546/81000236>

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000236>



## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容 (3)

浅野 慎一

-A Sociological Study on Asian Students in Japan: Their Life and Acculturation(part 3)-

Shin-ichi Asano

### 第3章 留学生・就学生をめぐる社会諸関係

#### 第3節 同国人との社会諸関係

さて次に、日本における同国人との社会関係の構造と問題を見ておこう。

##### 第1項 中国人国費留学生

まず中国人国費留学生では、生活面での主な相談相手は、同じ中国人留学生、特に国費留学生である。彼らは、学部・講座・大学を超え、相互に親密な関係を結んでいる。「信頼して相談できる同国人」も平均4人と、「信頼して相談できる日本人」の約3倍に上る。彼らは、中国人留学生会を必要と感じ、その活動を肯定的に評価している。ただし彼らには、切実な生活の悩み・相談事は少ない。また彼らは研究に専念しているので、日常の相互交流はそれほど頻繁ではない。

\*「中国人国費留学生3人が信頼できる。大学や学部は違う。日中友好協会の旅行、学会、人民日報の留学生の頁で知り合った。彼らには、個人的な事も相談する。たまに一緒に旅行する。日本にきて中国人の新しい友達ができるのはうれしい。困っている事を相談し合う人間が近くにいるのは大事だ。でも普段はあまり話す時間はない。皆、忙しいから。中国人留学生会は必要。留学生会で小旅行をしたり、忘年会や春節の集まりをする。同じ国の仲間といると安心するし、情報交換になる。普段は皆、研究で忙しく、ばらばらだから、たまに集まるのはいい。これがないと、研究ばかりで交流できなくなる」(日本政府国費)

「中国政府派遣の留学生が信頼できる。学部は違うが、同郷や同期の人。そういう友達と話すのは楽しい。誰かが女の子と付き合っているとか、生活のこと。日本にいて、いやな事があって、悩みを相談したりとか。そうじゃないと生きていけない。ただ、忙しいから、なかなか時間はない。中国人留学生会は必要。お互いに助け合えるし、生活の情報交換もできる。日本人より頼りになる。留学生会の旅行もあるし、忘年会や新年会もある。一応、中国人だったら、8~9割はこの会に参加しているはずだ」(中国政府国費)

なお中国人国費留学生は、中国人私費留学生とは、やや距離をおいている。即ち彼らは、一方で私費留学生の経済的不安定さに同情しつつ、他方で「出稼目的」の私費留学生のために中国人留学生全

\* 神戸大学発達科学部社会環境論講座

体の評価が下がるという批判をもっている。特に中国政府国費留学生には、批判的意見が強い。

\* 「どのように生活費を入手するか、ちゃんと決めてから留学した方がいい。そうでないと後で苦労して、勉強もできない。しっかり勉強しないと、これから来る留学生にも影響する。私は学会でもゼミでも積極的にやっている。でも、私費の人で、経済的な理由でそうできない人もいる。それは問題だ。留学するんだったら、ちゃんとお金を用意すべき。アルバイトしながら、研究はできない。よく大学の同級生や会社の知人で来たがっている人がいるけど、どの位、仕事ができるかとか、お金があるかとか、自分でよく認識しなければならぬ。それに勉強の意欲や意志の強さがあるかどうか。そうじゃないと、日本にきても生活費で苦労して勉強できない。私と同じケースなら大丈夫。でも、せめて学費とか免除されなければ、私費の人は大変。日本政府は、私費留学生にもちょっと費用をあげたらどうか。アルバイトのために来ている人もいっぱいいるので、難しい問題だが」 (日本政府国費)

「一生懸命勉強している人と、金儲けの人をきちんと分けて論じてほしい。一部の私費の人は金儲けをしているけど、それを学費にしている人もいる。それをきちんと分けて、本当に勉強をしたい人には奨学金をあげるべき。また国費のように大学で勉強している人は社会に出ない。そうでない人が社会では目立つ。コンパで飲みに行ったとき、隣の日本人が、『中国人は日本で一生懸命金儲けしてる』と言った。先生と話するときも、そういう話がよく出る。そのとき、自分はそういう人間ではないということが、どうしたらわかってもらえるか。これから留学する人には、お金があつて初めて勉強できるんだと言いたい。お金がないときではいけない。お金をちゃんと用意してから来いと言いたい」 (中国政府国費)

## 第2項 中国人私費留学生

中国人私費留学生のうち、まず理系大学院生の中国人相互の関係は、国費留学生のそれと似ている。即ち彼らは、中国人留学生相互で生活面を含めた相談をしており、「信頼して相談できる同国人」を平均2.6人と、「信頼して相談できる日本人」より多く有している。またそうはいっても、研究に専念する彼らは、日常的に頻繁な相互交流があるわけではない。

ただし彼らは、国費留学生とは異なり、経済・生活面で様々な悩み・解決課題を抱えている。そこで、彼らの相談内容は、国費留学生のそれより、切実なものであることが多い。

\* 「今の住宅が見つかるまで、中国人私費留学生の友達の部屋にただで住ませてもらった。その後、今の寮を別の中国人私費留学生の友達に教えてもらい、申し込んだ。専門でわからない時も留学生に聞く。アルバイトの情報も、留学生の友達からもらう。誰かの紹介がないとアルバイトを自分で探すのは難しい。こうした友達は、生活のために絶対に必要だ。ただ私達は忙しいから、普段の交流は殆どない。電話はくるけど、会う時間は少ない。それに、いろいろ相談しようと思えばできるが、できるだけしないようにしている。皆、忙しいから、他人の事まで解決できない。負担になってしまう。できるだけ自分で解決する」

これに対し、文系大学院生・私費留学生・専門学校生では、「信頼して相談できる同国人」(平均約2人)は、「信頼して相談できる日本人」より少ない。彼らの場合、中国人よりむしろ日本人との関係が主である。しかし、彼らの中国人相互の関係は希薄というわけではない。むしろ彼らは、国費留学生や理系大学院生より一層頻繁に交流し、しかも学費・生活費の貸借、アルバイト・住宅・保証人の紹介等、生活に不可欠な相互援助をしている。そうした中国人の友人は、来日前の同郷・同窓に加え、来日後の学校やアルバイト先での知己もいる。そして多くが、私費留学生相互の関係である。

\* 「中国人の友人同士、いつも電話している。何もなくても『お元気?』と。病気になった時も不安だし、お互いに親元を離れて生活しているのだから、できるだけ助け合いたい。緊急の相談をする中国人は、子供の時から友人と大学時代の友人。それと専門学校の同級生の中国人。保証人も、先に来日した友人に紹介してもらった。その人に、すべての手続きを頼んだ。アルバイトも、中国人の友人のつてが大きい。来日後、

## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容(3)

先にきていた友人と一緒に来てもらってバイトを探した。今の中華料理店も、友人の中国人留学生在が『人手が足りないから』と誘ってくれた。学費がどうしても足りない時も、中国人の友達から借りて後で少しずつ返す」(専門学校生)

しかしこうした親密な関係、特に金銭の貸借は、しばしばトラブルの原因にもなる。また専門学校生の一部では、中国人どうしの交際の中で、違法行為に接する場合も見られる。

\*「中国人も中国人を騙す。知り合いの中国人が授業料のお金に困っていて、同じ中国人だからと思って貸してあげたら、返済能力がなくて返してもらえなかった。他人が信じられなくなった。いい人もいるが、ひどい人もいる。私の知人の中国人が、携帯電話を人に貸すという商売をやっていた。後で知ったが、それは違法だった。私は、彼に、別の知人の留学生を紹介してあげた。すると、その留学生は、携帯電話を借りて国際電話をかけまくって、料金を払わなかった。最初の知人は何百万円も電話代を請求され、逮捕されて強制送還された。私は直接は関係ないが、両方の知り合いなので、間に立って困ってしまった」

なお、中国人私費留学生の場合、中国人留学生会や国費留学生との関係は、学校毎に異なる。

即ちまず、大学院生では、中国人留学生会の必要・不要の意見分布は、大学毎に多様である。大学により、私費留学生の要求を反映した活動をしている中国人留学生会と、国費留学生の交流中心のそれがあり、それによって意見が別れているのである。

\*「留学生会は必要。毎年、新しくきた留学生に、会の役員が、日本の物価とか、住宅のこととか、アドバイス・指導する。それに春節で、毎年、地元の華僑団体や日中友好団体のお世話になって、場所と料理を提供してもらう。そのパーティで、華僑や日本人の知人ができることもある。一人のコネは限られているが、まとまれば大きい。民間の友好団体が行事をするときも、留学生側の窓口がないと困る」

「留学生会は不要。あれは、国費留学生の組織。私費留学生は関係ない。ただ留学生どうしの交流だけで、何も問題を解決できない。それに、会の活動をやると時間がとられる。私費の人は忙しいから、リーダーは国費ばかりになる。事実上、私費は、あまり活動できない」

また大学院生は、大学で国費留学生と接し、アルバイト先等で大学院以外の私費留学生・就学生とも出会う。そこで彼らは、一方で、「私費留学生を軽視して、自分だけの地位を守ろうとする」一部の国費留学生を批判し、他方で「出稼・金儲けに走る」一部の私費留学生・就学生をも批判している。

\*「各国政府の代表が、留学生問題でシンポジウムを開いた。その時、中国政府の代表は、『日本政府に言いたい。まず留学生と就学生を分けて考えて下さい。いろいろ問題を起こしているのは就学生で、留学生は悪くありません。また留学生の中でも、国費と私費を分けて考えて下さい。国費は経済的に大丈夫なのです』と言った。これには、皆、怒った。私も怒った。どうして中国人皆がよくなるように考えないのか。いろいろ分けて、いい部分だけ守ろうとするのか。国費留学生の中にも、こういう、自分さえよければいいという考え方をする人がいる。もちろん、いくら中国政府が悪いからといって、国を捨ててお金儲けに走るのはよくない。その中で、私達が自分を鍛えて、何が出来るようになるのかが大事だと思う」

これに対し、私立大学生や専門学校生は、中国人留学生会は不要と考えている。また彼らは、身近に国費留学生がいないため、特に国費留学生に対する意見は有していない。

\*「中国人留学生会はいらない。なくてもお互いの連絡や助け合いはできる。意味がない。会をやる暇があったら、日本人と交際した方がいい」

### 第3項 中国人就学生

中国人就学生では、中国人どうしの関係が特に重要である。アルバイトの紹介や金銭の貸借、緊急時の相談相手も主に中国人である。「信頼して相談できる同国人」は平均3.6人で、「信頼して相談できる日本人」よりはるかに多い。

ただし、中国人就学生の中でも、大卒専門職出身者の「信頼して相談できる同国人」は、来日以前からの同郷・同窓の友人、来日後の日本語学校の友人、そして配偶者であることが多い。これに対し、高卒労働者出身者のそれは、友人の友人、アルバイト先等、来日後、新たに作った関係が中心である。

そして専門学校生の一部には、就学生時代の中国人相互の関係において、金銭の貸借に伴うトラブルや犯罪への関与があったとする者も見られる。

- \* 「日本語学校の友人に30万円貸したら、返してくれなかった。授業料が足りないというから貸したのだが、実は、自動販売機を壊す機械を買って、金を盗もうとしていたのだった。彼が言うには、その機械は本当は20万円だが、騙されて70万円で購入されたという。その機械を見たが、インチキなもので、20万円もするはずがない。でも、とにかく相手に金がないのだからしょうがない。絶対に返すという誓約書はとったが、今も返してもらっていない。日本語学校の友達は、何人かで夜によく出て行って、新しい電気製品を持って帰り、それを売っていた。彼らは、『ゴミの中にあった』と言う。でも本当は盗んだもの。あんな箱に入った新品がゴミにあるはずがない。皆、それは知っている。でも口に出しては言わない」

### 第4項 韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人就学生

韓国人留学生は、生活面での相談は、主に韓国人留学生どうしで行っている<sup>1)</sup>。

ただしその中でも、国費留学生では、「信頼して相談できる同国人」は1.5人と少ない。彼らには、そもそも生活面での深刻な悩み・相談事が少ない。彼らは韓国人留学生会も不要と考えている。

他方、私費留学生は「信頼して相談できる同国人」が4.4人と多い。彼らには、アルバイトや住宅探し等、韓国人留学生どうしの相互援助が必要である。彼らは留学生会も必要と感じている。

- \* 「バイトや金、奨学金の事は、同じ問題・苦しみを先に経験してきた韓国人留学生に相談する。生活のことも研究のことも、わからなかったら、まず韓国人留学生に聞く。住宅は、以前、韓国の大学の先輩が住んでいた所を譲ってもらった。今は、新しくきた人の相談にのる方が多い。韓国人留学生会はあった方がいい。年に数回だから、負担というほどでもないし。新年会・忘年会で集まって話したり、食事をするのは楽しい。それに新しくきた人には、いろいろな情報源になるから必要だ。同じ立場で生活しているから、お互い役立つ面がある。同じ留学生どうし、情報交換や助け合いをすることが大事」(私費留学生)

インドネシア人留学生も、同国人の留学生に生活上の相談をしている。「信頼して相談できる同国人」は平均2.5人と、「信頼して相談できる日本人」より少ないが、確保されている。彼らはまた、インドネシア人留学生会を必要と感じており、その活動は活発である。さらに彼らは、インドネシア人以外の留学生の中にも積極的に友人を作っている。

- \* 「生活のことは、インドネシア・アメリカ・スーダン・スペイン等、いろんな国の留学生に相談する。寮で一緒の人達。よく寮の人とおしゃべりする。住宅は、韓国人留学生から紹介してもらった。インドネシア人留学生とは、勉強とか家族の事とか思い出とか話す。旅行にも一緒に行く。旅行の時は、他大学のインドネシア人留学生の家に泊まる。もし誰かが私の家にきたら泊める。アルバイトは、帰国したインドネシア人から引き継いだ。インドネシア人留学生会は、とても活発で、いい。困った時、話ができる。毎月集まってインドネシア語を話せるし、問題がある人が質問して、先輩が説明する。日本で同じ国の友達がいると感じられると頑張れる。新しい人がきた時は、空港まで迎えに行く。オリエンテーションもやる。私の時も、先輩がいろいろしてくれたので、そんなに問題がなかった。助け合いも多い。皆でお金を1万円積み立てて、誰

## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容 (3)

かが学会に行く時など、順番で使う。引っ越しも皆、手伝う。忘年会や新年会もやる。会の役員の部屋には、いろいろ情報も集まっている。卒業してからも交流が続けられたらいい」

最後にマレーシア人就学生は、男性と女性で、社会関係が大きく異なる。即ち男性では、「信頼して相談できる同国人」は少ない。ただし彼らは、アルバイトの情報は、同じマレーシア人就学生から得ている。これに対し、女性では、「信頼して相談できる同国人」は平均12.5人と極めて多い。緊急時の相談相手も、多くがマレーシア人就学生のクラスメイトを挙げている。

## 《補注》

- (1) 韓国人留学生では、中国人ほど国費・私費の生活水準格差は大きくない。そこで、国費・私費の関係はそれほど隔離されず、矛盾も少ない。ただし私費を含め、韓国人留学生には、「中国人留学生で金がなくて働いている人がいる。それはビザを誰にでも許可するからだ。これだけお金が必要という規則をはっきりさせ、金がない人は留学を許可しないように」という意見もある。また、やはり国費・私費の間で葛藤が生じる場合もある。「ある先生が文部省奨学金は多すぎると、留学生の集まっている前で言った。それで国費と私費の仲が悪くなった。(国費留学生も) そんなに贅沢はしていない」。なお韓国人留学生には、母国の両親の健康問題で悩む者が多い。「家族の健康で悩んでいる。母が丈夫じゃない。留学生の中でも急に親がなくなって帰国するケースがある。他人事とは思えない」。

## 第4章 留学生・就学生の文化葛藤

本章では、留学生・就学生が感じる様々な文化的葛藤の実態を明らかにする(表4-1~4参照)。

## 第1節 日本語と文化習慣

まず留学生・就学生は、来日直後、多かれ少なかれ、言葉の問題に直面する。来日前、日本語を専攻していた中国人文系大学院生も、来日直後は、ヒアリング等に戸惑うこともある。まして来日前に日本語を本格的に学んでいなかった他の留学生・就学生が、言葉の壁にぶつかる事はいうまでもない。

\* 「来日直後の悩みは、日本語がうまくできないこと。話すのと聞くのが特に難しい。研究室の人とも交流できないし、テレビもわからなかった。買物も人に道を聞くのも難しかった。英語だったらすぐ慣れるんだけど。銀行で口座を作るのも、大学の教務掛の所でも困った」(中国人日本政府国費)

「来日直後、買物で値段をレジでいうとき早過ぎて聞き取れない。ディスプレイを見ないとわからない。書くのが難しいし、会話をもっとわからなかった。信号を見落として横断歩道を渡っていて、警察が『赤ですよ、赤ですよ』と言っていたが、それが分からず、渡り終わってから気がついたこともある。半年しか日本語を勉強していないので、勉強面でも生活面でも心配だった」(中国政府国費)

「来日直後、会話に困った。最初は英語で話していた。大学はいいけど、普通の人は英語がわからない。スーパーのようにしゃべらなくてもいい店がいいが、デパートや食堂に入るのが面倒だった。こういうものはどこに売っているのか、地下鉄の乗り方とか聞こうとしても、わからなかった」(韓国人私費)

「来日直後の問題は、日本語ができないこと。聞くのと話すのが特に難しい。新宿で遊んだ時、道に迷ってわからなくなった。日本人に英語で尋ねても日本人は英語アレルギーでみんな逃げる。警察に聞いてもだめだった。友達を呼んで迎えにきてもらった」(インドネシア政府国費)

こうした日本語の問題は、来日直後は確かに深刻ではある。ただしその後、多くの場合、少なくとも

も日常生活上の不自由は減少している。「考える時も日本語を使うようになった」者もある。とはいえ現時点でも、中国人の理系大学院私費留学生・私立大学生、インドネシア人留学生の研究・学習、及び、中国人・マレーシア人の就学生のアルバイトの際、日本語が大きな問題となっていることは、既に述べた（第2章第1節・第2節）<sup>1)</sup>。

留学生・就学生は、食事、マナー、宗教等、様々な文化的相違にも悩まされる。

まず、中国人の日本政府国費留学生では、マナーが重要である。彼らは、主に大学内の日本人との関係形成を積極的に求めている。その際、マナーの違いが特に問題となる。彼らは、日本式のマナーを意識的に身につけようとしている。

\* 「日本人との付き合い方に気をつける。そうでないと、トラブルが起こったり、迷惑をかけたります。失礼なことをしても、こちらはわからない。こちらが優しい心をもっていても、表現の仕方で誤解されることもある。例えば、中国では聞こえないと失礼だから、大きい声で話すけど、日本ではあまり大きい声で話すと却って失礼。中国では非常に貴重なものを贈るけど、日本ではそれは必要ない。それに中国でいいものでも、日本の趣味にあわないこともある。他にも、行儀とか、食事のマナーとか、すみませんと言わなければならないとか。やはり日本は特徴ある文化だから難しい。日本の習慣や趣味にあうよう、いつも気をつけている。留学生と日本人の両方に、こういう違いを短期間に乗り越えられるような手助けが必要。そうすれば、相手の気持ちや考えもわかり、勉強や生活の問題も、迷惑をかけることもなくなる」

また中国人国費留学生では、「遊び」や「酒」を介して友人になることに日本人の社会関係の特徴を見だし、そこに戸惑う者もいる。これも主に大学内の日本人の関係を念頭においたものである。

\* 「日本人はお酒が好きだし、友達を作るにはお酒を飲まなければならない。研究以外の遊びの場でしか友達ができないみたい。私はどうしても、研究以外のことにあまり興味をもてないから、付き合いが難しい。お酒についても、心理的に抵抗がある。中国では、お酒をたくさん飲むのは嫌われる。酔っ払ったら無視される。中国では、親しくなるのはクラスメイトが中心。日本では遊びで親しくなる」（日本政府国費）

「中国では友達になるのは簡単になれる。教室でなるんですね。日本人は遊ばないと友達になれないんですね。お酒飲まない」と（中国政府国費）

他方、中国政府国費留学生、及び、大学・大学院の中国人私費留学生には、文化的相違に基づく悩みはあまりない。中国政府国費留学生は、そもそも日本人との人間関係に無関心な者が多く、逆に、

表4-1 大学院生・大学生：日本人の労働観・文化的相違

文化的相違 あいつ	プラス・イメージ		どちらともない		マイナス・イメージ	
	A:B:C:D	その他	あいつ	その他	あいつ	その他
中国(国費) ①	土産物	仕事優先・正確			仕事優先	
中国(国費) ②					過労死 健康に悪い	
中国(私費) ③					仕事やりすぎ	
中国(私費) ④	住宅・ふる				過労死・働きすぎ 無用な勤勉 若者怠惰・上意下達 執拗欠如・集団主義	
中国(私費) ⑤					働きすぎ	
韓国(国費) ⑥	生活習慣 寒さ					
韓国(私費) ⑦	酒店・地下鉄 医療					
インドネシア(国費) ⑧	TV・習慣 寒さ					
インドネシア(私費) ⑨	生活習慣 電車・寒さ					

注)あ=食事、い=マナー、う=宗教、  
A=勤勉・まじめ、B=責任感、C=サービス、D=時間重視・時間厳密  
イ=長時間労働、ロ=ゆとり欠如・多忙、ハ=男女差別  
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

私費留学生は日本人との親密な関係の中で、表面的な文化習慣の相違を、既に乗り越えているからである。もちろん、私費留学生も、来日直後は、来日に伴う緊張感ともあいまって、日本の習慣や食事に関する違和感を感じていた。しかしそれも、まもなく解決している。

\*「最初、空港まで迎えに来てくれた日本人の家に着くと、正座して迎えてくれた。私が一番年下なのに。どうして返せばいいか。正座の習慣もないし。畳だから、靴を脱いで家に入る。知識では知っていたけど、最初は不思議な感じがした。風呂も入浴剤で緑色。入る気がしなかった。屋根も低い。

何もかも違って、不安になった。でもすぐに慣れた」(文系大学院私費)

「来日直後は、食物に困った。どれも、というより、何も食べられない。何を食べても、中国のものと違うような気がして。緊張感のせいだと思う。1週間位、水もだめだった。空気も何か違う。中国からもってきた栄養剤を飲んでた。それが一番困った。でも慣れたら、何も感じなくなった」(私立大学私費)

中国人の専門学校生、及び、就学生では、日本の食事に対する違和感が特に強い。彼らは、アルバイト先で夕食をとることが多く、食事を選択の余地が少ないのである。また特に就学生は、日本人との交流を積極的に求めており、それだけにマナーの違いにも問題を感じている。

\*「刺身やみそ汁は、やっぱりいや。夕食で、甘いものや肉・魚は食べたくない。故郷の福建では、おかずの種類をたくさん食べるが、こっちは1~2品しか食べないから、食べる気がしない」(専門学校生)

「日本人は油炒め等があまり好きでない。ナマものが好き。こういう点は、ちょっと困る。こっちは一生懸命料理しても、本当はおいしくないかも知れない。私がいくら親切にしても、日本人にはわからないかもしれない。また相手が親切にしてくれても、私にはわからないかもしれない」(就学生)

韓国人留学生とマレーシア人就学生も、食事の味付け、及び、様々な生活習慣の相違に違和感を感じている。ただし彼らの悩みは、比較的短期間のうちに解消している。

\*「来日直後は食物が悩み。塩辛くて甘い。味付けが合わなかった。大学の食堂に洋食が少なく、まずい。今は慣れた。それと韓国では病院に行くと、すぐに注射をするが、日本では薬が多い。これで効くのかと思った。今では、日本式もゆっくりだがよくなるので、いいと思うようになった」(韓国人)

表4-2 就学生・専門学校生：日本人の労働観・文化的相違

文化的相違	(1) (2) (3) (4) (5) (6)						その他：日本人から学ぶべき点		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
中国・専門学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
①食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④食事	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本・大学・専門学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
①生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑧生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑨生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑩生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑪生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑫生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑬生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑭生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑮生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑯生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑰生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑱生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑲生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑳生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉑生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉒生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉓生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉔生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉕生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉖生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉗生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉘生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉙生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉚生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉛生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉜生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉝生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉞生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㉟生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊱生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊲生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊳生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊴生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊵生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊶生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊷生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊸生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊹生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊺生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊻生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊼生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊽生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊾生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊿生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○
㊿生活習慣	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(1) A:日本人は、仕事に対する責任感が強く、意欲的に仕事に取り組む。 B:日本人は、仕事に対する責任感が弱く、あまり意欲的ではない。 C:この面で、日本人と中国人に違いはない。  
 (2) A:日本人は、仕事中心で企業に対する忠誠心が強く、自分の生活を犠牲にしている。 B:日本人は、自分の生活中心で、企業や仕事はそのための手段だと考えている。 C:日本人と中国人に違いはない。  
 (3) A:日本人は、上司に服従し、反抗しない。 B:日本人は、上司とも平等の立場で議論する。 C:この面で日本人と中国人に違いはない。  
 (4) A:日本人の労働時間は長い。 B:日本人の労働時間は短い。 C:この面で、日本人と中国人に違いはない。  
 (5) A:日本の職場は男女不平等で、女性の地位が低い。 B:日本の職場は男女平等で、女性も対等の地位にある。 C:この面で、日本と中国に違いはない。  
 (6) A:日本人は、自分の仕事だけでなく、お互いに協力して集団的に仕事をする。 B:日本人は、自分の担当した仕事だけをやり、他の人の仕事にあまり干渉しない。 C:この面で、日本人と中国人に違いはない。  
 日本人から学ぶべき点:イ=勤労、ロ=協力精神、ハ=経済発展、ニ=礼儀  
 実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

最後にイスラム教徒のインドネシア人留学生は、文化習慣に基づく葛藤が最も大きい。これは、単なる「慣れ」や「使い分け」で解決する問題ではない。

\*「私達はイスラムだから、カルチャー・ショックが大きい。日本は、売春とか誘惑が多い。テレビもあまりよくない。精神が強くないと、勉強に身が入らない。心が弱いと、日本ではだめになってしまう。精神力の強さは、人によって違う。影響されやすい人と、されにくい人がいる。家族と一緒にきている人はいいが、1人できた人には誘惑がたくさんあって苦しい。イスラムからすれば、ああいうことをやっている、死んでから地獄に行くんじゃないかと思うことも多い。食事のときも、この肉は豚か、といつも質問する。どうしてもだめだったら、パンだけ。イスラムの食事のレストランがあるかどうか、食事の材料が買えるかどうか、いつも気にしている。お祈りする場所も作ってほしい。今は、図書館や空き教室でお祈りしている。また日本人は酒を飲みながら付き合うことが多いが、私達は飲めない。酒を飲み誘われて、断り方も難しい。酒を注がれて、要らないという怒られた。イスラムでは、いいことと悪いことが決まっている。このことは何度も問題になった。今は、教授も理解してくれたから、酒に誘わなくなった。イスラムの教えというのは、こういうことなんだなあ、自分で経験して初めてわかった。宗教を信じている人は、とてもセンシティブです。そこを理解してほしい」

## 第2節 日本人の労働観

留学生・就学生が直面する文化的葛藤は、狭義の文化習慣や言葉の問題にとどまらず、より基本的な労働観や人間関係観にも及ぶ。以下、彼らが学校やアルバイト先で感じる労働観の相違を見よう。

### 第1項 共通の評価 — 「勤勉さ・まじめさ」 —

留学生・就学生の多くは、国籍や属性を問わず、日本人の労働観に「勤勉さ・まじめさ」を見だし、それを肯定的に評価している。

\*「日本人は仕事優先で一生懸命まじめに働く。責任感が強い。日本がここまで豊かになった原因は、日本人が仕事を一生懸命にやっているから。中国も、皆、そうあってほしい。中国人は日本人のように命がけで働かない。毎日、日本人と接して直感的に、そう思う。大学の中でもそうだし、大学にくる営業のサラリーマンも一生懸命頑張っている。『仕事の虫』というのは本当。仕事の仕方も非常に精密で正確。それに好奇心が強く、何でも知りたがる。要するにまじめだね。これは中国では考えられない。貴重な体験だな。こんなに一生懸命働く価値観をもっている人が、地球上にいたということだな」(日本政府国費)

「日本人はまじめ。仕事ができ、苦勞に強い。一生懸命頑張る。アルバイトでポケット・ティッシュを配る人まで一生懸命配っている。何でも細かいところまできちんと真剣にやる。中国人は大ざっぱ。そんなにまじめにしない。そういう面では日本人を手本にすべき」(文系大学院私費)

「日本人は一生懸命努力する。それが日本の経済繁栄を作った。中国人は、会社や仕事に対する態度と責任をもっと勉強すべき。中国人は仕事にのんびりしすぎる。私は中国では、毎日、工作中、小説を読んだり編物をして時間をつぶしていた。そういうことを続けていると、中国はだめになる。中国人は、8時間の仕事は8時間でやめる。日本人は、仕事が終わらないと、終わるまで続けてやる。私の保証人の会社でも、毎日9時半まで仕事している。日本では、労働者が皆、自分の店だと考えて働いている。働いている時間は何も考えないで精一杯一生懸命に働く。どこでも『頑張って下さい』と言ひ合う。中国人は、仕事の時間が早く過ぎて、自分の時間にならないかなーと思いながら働いている」(専門学校生)

「日本人はとにかくまじめ。音楽でも、中国人は録音のとき、演奏の2時間前に初めて楽譜を見る。どうせ何回も演奏して、いい部分だけ集めて録音するのだから。練習は殆どしないで録音する。日本では、同じようにいい部分だけを集めて録音するのに、それでも1カ月前から練習して録音する」(専門学校生)

## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容(3)

「日本人のしっかり働く精神・責任感・まじめさ・効率性は学ぶ必要がある。中国は、とにかくゆっくりゆっくり。仕事のスピードがよくない。日本人は、仕事をするとき一生懸命にやって、終わってから休む。職場を自分の家のように考えて懸命に仕事する。中国人は、ゆっくり休みながら仕事する。日本人は、すごくまじめに納得するまで仕事をやる。細かい所まで自分で考え、研究する。なぜだろうとか、自分で考えて工夫しながらやる。中国人は、まあ、できあがったらOKだと考えて簡単にやる」(就学生)

「日本人は自分の仕事をきちんと勤勉にする。まじめに努力する。これはいいことだ。引き受けた事はしっかりやる。すごいと思った。講座にもルールがあって、8時20分までに全員来る。遅れると無視する。失敗は許さない。韓国では、いつでも失敗できるという感じがあった。仕事への責任感が低く、熱心に働かない。日本は、プロという感じで、こういう厳しさはいい。皆、根性がある、自分でけじめをつけ、仕事に専念している。だから日本人の仕事は精密で、技術も精巧になる。とにかく驚く」(韓国人留学生)

「日本人はよく働く。まじめに一生懸命に仕事をする。夜の10時までとか、日曜にも仕事する。この勤勉さをインドネシア人にも見習わせたいけど、うまくいっていない。インドネシア人はもっとまじめにやってほしい。それと日本人は、実験とかでも、一回失敗しても諦めない。2回も3回もやり直す。最後まで頑張る。インドネシア人ももっと自信をもって最後まで頑張る、自分の力でやれるという意欲・自信をもってほしい。また日本人は、仕事するとき、いつも時間に間に合うようにしている。約束しても、時間通り守る。時間をむだにしない。効率的。これはいいこと。インドネシア人は、だいたい15分~30分位遅れる。時間や約束を守らない。インドネシア人は、この点を見習ったらいい」(インドネシア人留学生)<sup>2)</sup>

また特に中国人留学生では、国費・私費を問わず、消費者として接する日本人の労働者に、「サービス精神」を見だし、これも肯定的に評価している。

- \* 「百貨店でもレストランでも、日本人のサービス態度はいい。中国人は日本人の仕事のサービス精神を勉強すべき。日本では、作る様子でも、接客態度でも、お客様第一。中国では、皆、国営だから、態度が悪い。お客の方が『ありがとう』と言う。上海の国営レストランのサービスはひどかった。この春休み、帰国した時、口喧嘩した。日本のサービスはやっぱりいい」

## 第2項 ゆとりの欠如・過労死

しかし、韓国人以外の留学生・就学生には、日本人の労働観に対して、様々な批判もある。

まず、大学院・大学で学ぶ中国人・インドネシア人留学生、及び、マレーシア人留学生は、日本人の「勤勉・まじめさ」が、長時間労働・ゆとりの欠如・過労死と表裏一体であることを否定的に評価している。また日本人が仕事に追われ、人生の意味や目的を見失っているとも感じている。彼らが想定している日本人とは、主に大学教員・院生、及び、営業や事務職のサラリーマンである。

- \* 「日本人は、長時間労働。どうしてそんなに頑張るのか。仕事に忙しく、楽ではない。仕事ばかりで、生活を楽しんでいない。大学院生も、夜遅くまで研究室に残って勉強をする。どんな目標があるのか。偉くなりたいのか。私は残業はしたくない。なぜそんなに自分の時間を割いてまで勉強や仕事をするのか不思議だ。日本人のサラリーマンも残業をいっぱいやって、仕事が終わってから飲んで話したり。遅く帰る。働きすぎる。挨拶がわりに『忙しいですか』。これはちょっと理解できにくい」(中国人日本政府国費)

「勤勉はいいことだけど、あまり働きすぎると体に悪い。特にサラリーマン達、もっとゆっくり生活したらいい。大きく言えば、日本人が何のために生きているのか知りたい。何のために一生懸命してるのかわからない。そんなに一生懸命働かなくても生きていける。過労死とかも起きる。日本人は気の毒だ。生きている意味がわからなくなるのではないか」(中国人中国政府国費)

「日本人は働きすぎる。例えば勉強にしてもサービスにしても、時々研究室に来るサラリーマンを見ても、大変だ。過労死とか、働きすぎ。もう今のような豊かな社会になったのだから、休んでみたらいい。自分の

生活を楽しむために、生活のために仕事をする方がいい。日本人の仕事は仕事のため。目標がない。日本は、物は多くて豊かでサービスもいいが、コツコツ働いている時間が多くて、そんなに豊かだと思わない。中国はそこそこ働いて十分暮らしていける。中国の方がのんびりしている」（中国人私費大学院生）

「日本人の平均的な生活は忙しく働きすぎる。ゆとりがない。普通のサラリーマンは皆、そう。夜遅く、朝早く、付き合いとか。仕事でも怠けたらだめ。中国とは、疲労の質が違う。日本は責任感が大きすぎる。まじめすぎ」（中国人私立大学生）

「日本人は勤勉だが、自分の人生が何のためなのか、日本人にとっての人生の意味は何ですかと、いつも考えている。死ぬまで働く、それだけかと思っている。家に帰る時に疲れきっちゃうのもよくないし、朝早くから出ていったら家族のための時間もない。フォーマルな時間じゃなくて、酒を飲みながらでも、会社や仕事の話をしている。仕事のためにはいいかもしれないけど、人生は仕事だけじゃない。保育園に子供が行っているのわかったが、日本では子供の時から、仕事を重視する教育をやっている。人生の幸福は、いい会社に入ることという考えを教えられている。子供を迎えに行くと、『お父さん、どこの会社?』と聞かれて困った。有名な会社だと、すごいとか」（インドネシア人留学生）

「日本人は、自分の生活を犠牲にしすぎる。会社は本当は5時までのはず。でも僕がビル掃除で働く時、大きな会社の社員は7時でもまだ働いている。日本人は、会社の仕事を1日分終わるまで、時間に関係なく、一生懸命に最後までやる。だから家庭にいる時間がない。家族との会話が少ない。できるだけ仕事時間を延ばさず、自分の生活の時間をもっと考えるべき。日本人の生活は緊張しすぎる。のんびりゆったりすべき。マレーシア人は、もっとゆったりよく遊ぶ」（マレーシア人留学生）

### 第3項 工夫の欠如・上意下達

他方、中国人やマレーシア人の専門学校生・就学生等、単純労働の職場でアルバイトをしている層は、日本人の「勤勉さ・まじめさ」が、実は、「融通・工夫が欠如した無意味な勤勉」、それに基づく「上司から言われたことだけを忠実に実行する上意下達」という側面をもつと捉え、これを否定的に評価している<sup>3)</sup>。特に大卒専門職出身者に、こうした認識は濃厚である。

\* 「日本人は勤勉といっても、不必要な事も勤勉にやっている。意味のない勤勉・長時間頑張ればいいというのは好きじゃない。日本人はまじめすぎて、頭が働かない。上司にこうやって下さいといわれたら、他の方法で簡単にできるのに、何も考えないで、言われた通りにやる。上の人は命令するだけ。下の人は、自分の考えを全然発揮しないで、ただ機械的に働く。そういう点は、日本人はだめだね。工作中、ちょっと考えると簡単にできる事でも、工夫してはいけない。どんな変なルールも必ず守らないといけない。バイト先で中国人がもっと簡単なやり方を教えてあげても、『だめ。毎日、こうやっているから』と言われる。今の職場でも、店長が言え、日本人は、皆、『はい、はい』と服従する。文句があっても出さない。掃除でも、外人がやった方が早い。パチンコ店が終わってから掃除をするけど、外人が30分位で皆するの、日本人は40分やってもまだ終わらない。まじめといえまじめだけど、自分の頭で考えない。そんなに堅い頭をしないで、いちいち、いちいちにしないで、もう少し大体にしてもいい」（中国人専門学校生）

「日本では、上司や先輩が話したら、皆、『はい、はい』と従う。こういう点はよくない。中国人は、自分の意見があれば、部長でも課長でも誰にでも言う。やめさせられる心配がないから。日本人はやめさせられるから、我慢して反抗しない。日本のサラリーマンは苦しい。日本人の仕事の仕方は、機械的・習慣的。方法が不合理でも、間違っているでも、ただそのままやる。ほんやりしているというのか、まじめに機械的にやる。ずーっとまじめだけ。中国人は頭がいい。皆、工夫して、よく頭を動かして何かやっている。日本人は、他のやり方でやれば短い時間でできるのに、頭が固くて教えられたままにいつも同じやり方でやる。融通がきかない。中華料理の店でも、スープとご飯と肉と野菜、定食の皿の上におく方法が決まっている。中国人は、全部出したら、とにかくOKじゃないかと考える。日本人は、置く場所を決め、それを守らなければな

## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容(3)

らないと言う。料理でも、日本人は水を何杯とか、毎回計っている。そんなもの、何回かやれば、いちいち計らなくてもだいたいわかるのに、それでも計る。中国人は、いいか悪いか、とにかくやってみる。日本人はあれこれ心配ばかりで、勇気を出してやってみるということがない。上司に従って、ミスをしないことだけを考えていると必ずそうなる。創造性や工夫がなくなる」(中国人就学生)

また中国人私費留学生の中には、日本人の勤勉は、主に中高年者のそれであり、若者の中ではそれが変質しつつあることを指摘する者もいる<sup>4)</sup>。

\* 「日本人でも、年よりの人と若い人は違う。年よりの人は、苦勞したことがあるから、苦勞にならないように、一生懸命努力する。責任感や意欲が強い。それが日本の経済繁栄を作った。でも若い人達は、苦勞していないから、一生懸命しない。若い日本人は皆、会社のために犠牲なんてしないよ。そこまで考えていない。これからの日本には、いろいろ問題が出るのではないか」

さらに中国人やマレーシア人の留学生・就学生は、日本人の労働観に男女差別をも見いだしている。

### 第3節 人間関係観の相違

最後に、人間関係観における文化的葛藤を見よう。

留学生・就学生の多くは、人間関係面では、日本より母国の方がよいと考えている。即ちまず、母国の人間関係が「人情深く、親切・濃厚」であり、日本のそれは「『虚偽』で(水臭く)、希薄・疎遠」である。また母国が「率直で正直」であるのに対し、日本は「裏表・本音と建前」があり、本当の気持ちが届きにくい。そしてまた、母国の方が「個性を尊重し、自己主張がしやすい」のに対し、日本では「集団主義で、外部には排他的、内部では個性・自己主張を認めない」<sup>2)</sup>。日本人の人間関係が「希薄・疎遠」ということと、「集団主義」ということは、一見、矛盾しているかに見える。しかしこの両者は、「本音と建前」を媒介として表裏一体である。即ち留学生・就学生から見ると、日本人は「集団主義」で、個性・自己主張を認めないからこそ、日本人は本音と建前を使い分けることになり、そこで本音がわからず、疎遠で水臭い関係にならざるを得ないのである。

こうした認識は、留学生・就学生全般にみられるが、各層には一定の差がある。

#### 第1項 中国人国費留学生

まず中国人国費留学生は、日本人の人間関係に「裏表・本音と建前」、「希薄・疎遠」、「集団主義」をいずれも多く指摘しているが、中でも特に「裏表・本音と建前」を指摘する者が9割以上と多い。彼らが想定している日本人の人間関係とは、主に大学内部でのそれである。

##### \* 【裏表・本音と建前】

「中国のいい点は、ものをはっきり直接に言うこと。心を開いて正直に率直に言う。回りくどくない。日本人は、あまり本音を出さず、婉曲すぎる。自分の気持ちや考え方を皆に伝えていこうという気持ちが薄い。本音と建前がある。相手の気持ちを考えすぎ。人と人の間が、表面的なことを気にして、偽物が多い。口ではいいことを言っても、実際の気持ちは違う。表面では『元気ですか』と礼儀正しいけど、皆そういうから言っているだけで、本当の気持ちはわからない。これでは、『仲良く』なれても、本当の友人にはなれない。悩みとか、内緒にしたいことでも、よいことでも、悪いことでも話せるのが本当の友達。友達になろうとするのなら、悪いことは悪いとはっきり言い合うことが必要。日本人は悪いことを見ても何もいわない。違うと思って『そうですね』とか、あまり相手を怒らせないように言う」(日本政府国費)

「中国人は、まず率直に自分の言いたいことを言う。それから相手の反応をみる。日本人は、他人の立場・



ない。親しいと思っても、ある程度距離を保たなくては。冷たい感じがする」(中国政府国費)

#### 【集団主義】

「個人の性格とか個性をもっと重視した方がいいんじゃないかな。例えば、食事する時とか、日本人は皆、一緒に食事して、終わっていない人を待つ。中国ではそんなことはない。また、中国では、自由時間は自分の責任で好きなことをする。日本では、研究室に残って勉強しなければならない。そういう集団主義に束縛される。それに反する人は、疎外・排除される。僕が、授業の後、疲れて帰ろうとしたら、『もう帰るのか』と嫌みを言われる。他人に迷惑をかけない限り、個性をもっていろいろやった方がいいんじゃないか。日本人は集団性が強いから、それから外れて皆とやり方が違うと、それだけで困る。日本では、あまりいきなり自分を表現しない方がいい。できるだけ皆と同じようにやれば、問題はおきない。僕は別に異質者だとは思わないけど、確かに日本は少数者には住みにくい社会ですね」(日本政府国費)<sup>6)</sup>

「日本では、皆なるべく一般的な事を求める。団体主義。個人の個性を出さないようにする。日本人の関係は堅苦しい。フォーマルすぎて、本当の人間が見えない。『こうするものだ』という意識が強すぎる。女の子には、言葉遣いやお茶をくむことを気にさせるし、大学院生は、授業の後も残って勉強するものとか。その決まりに従わない少数者は諦めなければならない。だから日本人は、自分を出すより、相手の気持ちを察しようとする。飲み会に誘われた時、行かないと、『皆一緒に行くんだから行こう』と言われる。なぜ、皆が行くと、私も行かなければならないのか。仕方ないから、本当は行きたくなくても行く。自分に正直というより、いつも相手の気持ちを重視する。個人個人にとっては、いいことじゃない。日本は、グループの中でないと生きられない。中国なら、このグループから外されたら、他のグループを作る。日本では、周囲の人と何か違う事をやったら、個性を出したら、嫌われちゃうんだよな」(中国政府国費)

## 第2項 中国人私費留学生・就学生

中国人私費留学生・就学生では、日本の人間関係が「希薄・疎遠」と感じる者が最も多く、「裏表・本音と建前」や「集団主義」をはるかに上回る。彼らが想定している日本人は、多くの場合、職場・地域等、大学外で接した日本人である。

ただし、私費留学生・就学生の中でも、各層毎に一定の相違がある。

まず理系大学院生は、日本人の人間関係が「希薄・疎遠」ではあるが、そこに一定の「礼儀正しさ・公共心」につながる肯定的要素も見いだしている。

\*「日本では人間関係が希薄。アパートでも隣の人と殆ど話さない。友達どうしでも、あまり訪問しあわない。中国だと、隣の人は親戚と同じような気がする。コミュニケーションが多く、人間関係が緊密。でも日本人は、関係が希薄で、距離をおくだけ、優しく、礼儀正しいイメージがある。街でも喧嘩とか見かけないし、ゴミもむやみに捨てない。皆、規則を守る。車が通っていない信号でもちゃんと待っている。日本は礼儀があり、他人に迷惑をかけないようにきちんと注意して生活している。社会も平和的で、知らない人どうしでも礼儀正しく、お互いに譲り合う。モラルが高い」(理系大学院生)

これに対し、文系大学院生は、「裏表・本音と建前」を感じる者が半数以下と特に少ない。彼らは、アルバイトの職場等で親密な日本人を作り上げる中で、日本人の「本音」を理解してきているのである。日本人は、確かに親しくなる前は「本音と建前」を使い分けるが、親しくなれば中国人同様、本音を話すようになって感じている。

\*「日本人は、最初は、本音と建前があって何を考えているのなかなかわからない。中国人は最初から自分の本音を言う。だから日本人は、最初、友達になりにくい。でも、親しい友人になれば、中国人も日本人も違いはない。最初、はっきりものを言わないのは、日本の文化で、相手に傷をつけたくないという思いやりの表現。それがわかれば、こちらも相手の本当の気持ちを理解することができる」(文系大学院生)

また文系大学院生は、日本人の人間関係の「希薄・疎遠」さの基礎に、単なる「本音と建前」や「集団主義」といった文化的特徴以上に、経済至上主義・利己主義の影響を感じ取っている。

\*「中国人は日本人より人情深い。日本の地下鉄のラッシュアワーで、若い女性が『降ります。すみません』と何度も頼んだが、誰も譲ってくれなかった。皆、黙って反応がなく、しかも譲ろうとしない。これは中国では考えられない。中国人は文句は言うが、ちゃんと降ろしてあげるだろう。日本人が黙って、しかも降ろしてあげないのは、何か不気味だった。また地下鉄で妊婦を立てて、誰も席を譲らない。これも中国では考えられない。日本は経済・サービスが発展しているから、誰にも頼らなくてもお金があればいい。誰にも迷惑もかけないし、頼み事もしないし、自分のことだけ考えている。日本人は、迷惑をかけないで、他人に頼み事をしなければいい、自分の事は自分で処理するのが当然と考えている。それはいい面もあるが、他の人への思いやりという面では、中国人ほど人情深くない。『割勘』も、冷たい利己的な感じがする。中国の場合、つきあえばつきあうほど親しくなるが、日本ではつきあっても、ある程度のところでやめる。限度があるような付き合い方。大部分の人は、自分の回りがある程度の線を引いているように思う。閉鎖的で寂しい。日本人が礼儀正しいとか、譲り合うのは、もちろん相手を思いやるのもあるが、それだけでなく、自分個人を守ろうとしているようにも感じる。『ここからは立ち入ってくるなよ』という感じ。日本は経済的には豊かだが、人間の感情・心は悲しく、空虚だ。家族も親戚も近所も冷たい。日本は親が長時間の仕事だから、子供は本当の話をいいにくくなるのではないか」

「日本人は、人間としての情感よりお金の方を重視する。クリスマスの時、ある日本人の子供がおばあさんから2000円のプレゼントをもらった。するとその子は学校に行きたがらない。おじいさん・おばあさんが不思議に思って聞いてみたら、学校で皆、プレゼントを比べあうんですよ。それで皆、1万円位のプレゼントをもらうんですね。2000円だと恥ずかしい思いをするんですって。私は信じられなかった。また日本人は、保育園の時から、お金を使うのがいい事と考えている。私は、お金がないし、子供の教育も考えて、子供にあまりお小遣いをあげないようにしているんですけど、すると他の日本人の子供が、『なぜお小遣いをあげないのか、かわいそうじゃないか』と抗議してきました。私も夫もかんかんになって怒りました。お金がない事がなぜ恥になるのでしょうか。でも、日本では、それも仕方がないと思います。もし誰も買わなければ、スーパーとかデパートとか成り立たないでしょう。既に社会全体が、そういうシステムになっているのだから。私は、日本の社会の深いところに問題があるんじゃないかと思っています。いじめ事件は、いきなり小学校から起こったのではなくて、日本の社会の上からそうなったんです。自然に子供達にも入ったんです。たまたま子供達の中ではっきり現れただけ。日本社会は、金になれば何でもするという感じがします。あまり情感や自尊心をもっていない気がします。会社で働く日本人は、妥協しても、メンツがつぶれても、利益になればいいという考えが強いようです。もっとお互いにどう助け合うのかとか、慰め合うのかとか、一緒に仲良くやっていこうとか、別のところに力を入れてほしい」

また文系大学院生には、日本の人間関係に、男女差別・女性蔑視を感じ、それもまた「希薄・疎遠」な人間関係の一つの現れ方と捉えている。

\*「中国では夫婦の関係も親しい。日本では、男女差別が強く、妻は家にいるから、夫婦の間もだんだん疎遠になる。日本の夫は仕事が多くて、家に帰らない。家事分担もない。中国では両方働いているから、話題が多いし、帰って一緒に何かやるとか、それに家事も夫婦でちゃんとやるとか、親密になる。なぜ日本の奥さんたちは献身的にぐちも言わずに尽くしているのかなあ」

他方、私立大学の私費留学生では、「裏表・本音と建前」、「希薄・疎遠」、「集団主義」が、いずれも7割以上を占める。ただし、彼らの中にも、文系大学院生と同様、親しくなってしまうと、「裏表・本音」については、中国人と日本人の差異はなくなると指摘する者もいる。

## \*【裏表・本音と建前】

「中国人は、最初から、率直に自分の意見を言う。日本人は最初、親しくなる前は、自分の本音を表現しない。『来て下さい』が、ただの挨拶か、本当に行くべきか。日本語学校や大学の先生に『私の日本語はどうか』と訊ねると、本当はだめでも『ずいぶん上手になったね』とか『もうちょっとですね』。そして私がいけない時、他の人の前では『あの人の日本語、全然だめ。勉強していない』。こちらを傷つけないようにしているのは理解できるが、本当の事はわからない。日本人は、反対意見があっても出さない。いつも『はい』だけ。何かを頼んだときでも、中国人なら『やりたくない』とはっきり言う。日本人は、『ちょっとそうですね、用事がある』とか、要するに『やりたくない』とはっきり言わない。回りくどい。中国では裏も表もない。いいものはいい、悪いものは悪い。だから日本人とは、お互いの気持ちを理解しあうのが難しく、知り合いにはなれても、友達にはなかなかかなりにくい。心からの話がしにくい。しばらく付き合っただけで親しくなれば、日本人も中国人も同じになるが、そこまでのプロセスがだいぶ違う」

## 【希薄・疎遠】

「中国人は人間が暖かい。お互い助け合う。感情が強いので本当の友達ができる。いったん友達になると、『友達の友達はみな友達』ですぐに親しくなれる。友達のことをよく考え、多少、自分を犠牲にしても友達のために貢献する。日本人どうしでは、なかなかこういう関係になれない。日本で言う『友達』は、中国では『知り合い』で、本当の『友達』ではない。日本人の間で、本当の『友達』はいないじゃないかね。日本人どうしで『友達』と言っているけど、いざというとき『本当に助けて下さい』と頼みにいったら、結構冷たい人が多いんじゃないか。日本人は距離をおいて付き合う方が礼儀だと思っているから、友達にも『助けて下さい』と頼みにくい。中国なら、友達は助け合うのが当たり前。日本人は相手のことを思いやるといわれるが、私はそうは思わない。日本人が相手のことを考えるというのは、お互いに迷惑をかけず、かけられずということであって、本当の友情とはちょっと違う」

## 【集団主義】

「日本は、外人に対して排除の態度があるが、そういう排除は日本人どうしでもある。『違う人』に対する排他性が強い。日本人で異質な人も、住みにくいだろう。『こうすべきだ』という集団の決まりが強くて、それに合わない人は排除される。それは男女の不平等にもいえる。『女性はこうすべきだ』とはっきり決まっている。だから日本人は、ああ言われた、こう言われなかったと、いつも気にする。中国人の方が洒脱。小さなことにこだわらない。小さな人間関係でも、日本人は内と外をはっきりわける。例えば、3人いたら、日本人は自分の友人とだけしゃべるようなことをする。残りの人の気持ちを考えない。中国人なら、もう一人のことも考える。そこが全然違う。これも、排他的という感じがある」

そして専門学校生や就学生では、「集団主義」や「裏表・本音と建前」は少ない。彼らは、特に単純労働のアルバイト先等で出会う日本人の人間関係が、集団主義ではなく、逆に個人主義・利己的だと感じている。そこでの日本人の人間関係は「希薄・疎遠」で、本音や建前を使い分ける余地すらない。彼らはそこに否定的感覚を抱いている。なお、就学生は、日本人の人間関係観についてまだよくわからないと感じているが、現時点での認識は、専門学校生と近い。

\*「日本人は、近所でも友人でも、皆、自分のことは自分でやるから、他人に関心をもたない。付き合わない。利己主義で友達があまりない。中国の方がいい。皆、友達みたいで、何かあったら見ている、助け合うということを楽しんでいる。友達の関係が全然違う。中国の人と人との情けは深い。友人の用事があったら、時間を作って必ず手伝う。日本人は、そんなことをしない。友達でも頼れない。日本人は防衛心が大きい。お互いの心に入れない。日本は夫婦関係もよくない。離婚率も高い。パチンコ店に住み込みの夫婦をみても、一緒にいることが少ない。夫が食事しているときは、妻がよそにいていて、妻が部屋に戻ってくると、夫が出ていく。会話も少ない。本当に夫婦なのか、なぜ一緒にいるのかと思う。親子も、日本では、あ

まり遊ばない。残業で忙しいから。冷たい感じがする」(専門学校生)

「日本では近所や親戚の関係が薄い。隣に住んでも関係がない。中国は、近所の人を大事にする。病気の看病とか、近所の人が助け合う。マンションでも、3日間見ないと、『どうしたの』といってくる。近所の人は何も用事がなくても『お元気』という感じで遊びにくるし、それで友人になる。中国人はとても賑やか。日本人は情け・感情・親切心が薄い。同じアパートに2年間住んでいても、挨拶もしない。困った時も頼りにはできない。びっくりした。中国では考えられない。ドアが面していても知らないんだから。私がドアを開けていると、向かいの人は必ず閉めている。最初は、私のことを『外国人で悪い人』と思っているのかと思ったが、そうではない。日本人どうしてもそうだ。こういう関係だと、こっちも何となく怖くなる。特にお年寄りなどは、病気になったときも日本なら不安だろう」(専門学校生)

「日本人同士の交際はまだよくわからない。でも、日本の親子や友人は、人の情けが薄い。冷淡というか、感情が冷たく、虚偽(水臭い)。特に東京はそうなのだろう。『東京砂漠』という感じ。私のアパートでも全然会わない。日本では、20年一緒に働いて『友人』と言っている、それは中国でいえば『知人』だ。お互いに感情や意見を言わない。日本は忙しいというのもある。利益にならないとだめという関係で、すごく悲しい。親子も疎遠。何となく幸せでない、寂しい気がする。中国なら、どんなに困っても、絶対友人が助けてくれるという安心があるが、日本は最後まで自分で何とかしなければならない。中国人の方が、心が広く、友情を信じている。人間の感情があつく、親しみがある」(大卒専門職出身就学生)

「日本人どうしの交際は、あまり知りません。ただ日本では、皆、忙しいから、お互いにあまり交流しない。話をするときも、本当の感情が入ってこない。子供と親も、本当の話をしていない。親子の感情も、日本は薄い。人と人の真摯な感情は、中国の方が感じられる。近所も、日本では冷淡で、子供で付き合っているみたい。中国の長所は人の情け。友人が困っている時は、皆で助ける」(高卒労働者出身就学生)

また彼らは、日本人の家族における性別役割分業も、夫婦の人間関係の希薄さの現れと捉えている。

\*「中国では、夫婦皆が仕事をもっているから、夫でも早く帰るといろいろな家事をする。お互いに仕事が終わったら、家に早く帰り、家族で休む。日本の男性は、お金だけ奥さんに渡して、会社が終わっても遅くまで飲んで遊んでいる。奥さんがかわいそう。日本の男性は、感情を分けて、外で女性と付き合う。私の勤めているスナックにも、毎晩、たくさんの男性が来て、夜遅くまで飲んで。毎晩来る人もいる。夫婦でくる人は殆どいない。奥さんは一生懸命夫に尽くして、夫は外で遊ぶ。それが日本ではおかしくないといわれる。こんな事は中国では許されない。日本の奥さんは、どのように我慢しているのだろう。仕事をしている奥さん達は、たまに子供を夫に頼んで、自分も友人と飲みに行ったりしている。なぜ、夫婦でいけないのだろう。仕事をしていない奥さんは、収入がないから、それもできない。そういう奥さんは、化粧品買うにも、夫に相談して、ダメと言われたら諦めている。中国人なら、妻や子供を連れて一緒に遊ぶだろう。日本人は、家族に対する思いやりというか、感情が薄いのではないか」(専門学校生)

「日本人は、妻が家の中の事を何でもする。夫は遅く帰ってくるのでやらない。本当に寂しい。日本の女性の定めは悲しい。夫婦・家族の感情が薄い。中国では、感情が大事。遊ぶ時は、多分、夫婦一緒に遊ぶ。日本では、夫は夫、妻は妻、子供は子供で遊んでいる。家族と一緒に何かすることが少ない」(就学生)

しかし同時に専門学校生や就学生が、こうした日本の「希薄・疎遠」な人間関係の中で、逆に自由・気楽さを満喫していることも事実である。

\*「日本は、1人で何でも決めるので、とても生活しやすい。中国では、人間関係を考えなければならない。何をやるにも回りの人を気にしなければならない。中国で一番困った問題は、会社の人間関係。関係がよくないと協力しない。生活や家庭のいざこざにも、会社が介入する。離婚等の噂があれば、会社が教育して、地位が低くなる。日本は、自由といえば自由。何時に帰っても何をやっても自由。誰も干渉しない。中国だっ

たら、近所の人や家族が『何をしてるんだ』とか『どこに行くんだ』とか、うるさい。日本には過労死があるけど、中国には『人間関係死』があるからね」(専門学校生)

「日本は気楽。中国では、世の中の複雑な人間関係に悩まされた。中国では、近所や親戚から管理される。職場でもいろいろ干渉される。今は、自分の時間を自由に使える。だから日本の子供は独立性が中国より強い。日本の男の子は20歳位で独立する。中国の子供は独立しない」(就学生)

### 第3項 韓国人留学生・インドネシア人留学生・マレーシア人留学生

韓国人留学生がみた日本人の人間関係観は、「裏表・本音と建前」と「希薄・疎遠」が多く、「集団主義」が比較的少ない。むしろ個人主義で、本音と建前を使い分けるがゆえに、希薄・疎遠になるという認識が強い。「割勘」や「人間関係が事務的」という評価も多いが、これも「裏表」や「希薄」の別の表現である。彼らは主に大学内部の人間関係を想定している。

#### \*【裏表・本音と建前】

「本音と建前があり、言っている事が理解できない。日本人の本音が知りたい。日本は本音と建前があってもいい社会だ。韓国は裏があまりない。直接言って、直接受け入れる。日本人は、自分の気持ちを前に出さない。来日当初は、いつも『相手はこう言っているけど、本当はどうかなあ』と思っていた。韓国にいる時と同じようにしたら、向こうも動揺する。どこまで言えばいいかわからない。つきあいが深まれば、自分のやり方をちゃんとやっていけばいいけど、最初からやると相手がびっくりするだろう」(国費)

「日本人は人の前では優しいけど、後ではどうかわからない。本音と建前を使い分ける日本のやり方は疲れる。韓国なら、お前のここがいいとか、悪いとかはっきり言う。日本人はあまり心の中をみせない。表面上の付き合いが多く、心から話せないんじゃないか。『・・・かも知れない』とか、『いいんじゃないか』とか。何か誘っても、『行きたいけど、うーん、でもー』とかだらだら言って、返事がない。行かないなら行かないとはっきり言って、理由を言えばいい。相手を傷つけないということもあるが、はっきり言ってしまえばいいのと思う。韓国は、本心を打ち明け、表現が直接だから、人間関係がいい。嫌いなら嫌い。はっきり言うことによってかえって話ができる。なぜ嫌いなのか、ということになる」(私費)

#### 【疎遠・希薄】

「一番感じるのは韓国は人間関係の情けとか、相手を大事にするということ。生活は貧乏でも皆で協力する。日本は、家族とか先輩後輩でも何となく形式的。効率的だが、その裏腹に非情、冷たいという感じ。例えば日本人は紙が1枚必要だったら1枚しかもってこないけど、韓国人は2～3枚もってくる。そういう感じがすね。例えば『割勘』。韓国では年長者が払う。『割勘』は冷たい感じでなじめない。人の分まで払うのは浪費だけど、それはいいことだと思う。相手に対しての思いやり。自分のことは自分するのが日本式。あんまり他人を期待してはいけない。一人のことは一人という考え方が強い」(国費)

「韓国では同じ研究室は家族と同じ。先生は親父。先輩は兄、後輩は弟と同じと思っていた。日本の講座の人達は親切だけど、やっぱりちょっと違う。韓国は物質万能主義じゃない。人間の心のことがいい。日本も何年前まではそうだったんだろうが、韓国の方がまだそれは残っている。情けを重視するし、人間関係の出来事を全部事務的に処理するのはすきじゃない。韓国の場合、同級生とか一緒に学科の学生は、飲んだり、友人の家で遊ぶことが多い。職場の同僚も食事に招待することが多い。日本は個人主義。飲んででも時間をきめて帰るとか、『割勘』とか。自分以外のことは関係ないという個人主義」(私費)

その他、韓国人の場合、日本人の人間関係には「長幼の序がない」との指摘も多い<sup>7)</sup>。なお、性別役割分業を指摘した者は皆無である。逆に日本では「学生生活で男女のミーティングがある」等、むしろ男女の対等な交流が見られるとの指摘すらある。

インドネシア人留学生がみた日本人の人間関係観は、「希薄・疎遠」と個人の中に閉じこもる「閉

鎖性」であることが多い。「裏表・本音と建前」は少ない。「集団主義」との指摘も多いが、しかしそれは集団の規範に柔順<sup>8)</sup>というより、「集団への閉鎖性」という面で強く認識されている。これと対称的に、インドネシア人の人間関係は、「開放的で気さく・親密」と感じられている。

\*「地域のつながりがインドネシアにはまだある。皆、回りの人達の事を知っている。日本は個人主義。アパートでも隣の人を知らない。日本人は他人に迷惑をかけたくないみたいだ。自分の事は自分でという個人主義は理解できない。僕のことは僕、他の人のことはあまり知らないんじゃないか。インドネシアでは友達というのは、うれしい時でも悲しい時でも相手と一緒にあって喜んだり、悲しんだりする。それにインドネシアは、友達になりやすい。バスに乗っていて、足を踏んだりして。そんな事がきっかけですぐ友達になる。日本人は、自分から話しかけないと友達になれない。同じクラスでも、自分が話しかけないと、皆、無視しているような感じ。オープンじゃないから難しい。日本人はまわりのことをあまり考えないで、自分の事だけ考えて生活している。あまりよくない」(大学院生)

「インドネシアの優しさが懐かしい。インドネシアの人は皆、そういつている。日本人は、外と内をよくわかる。自分と関係ある事だけやって、関係ないものは死んでもいい。クラスでも固まっちゃう。他人は他人。インドネシアはもっとオープン。日本のこういう所はあまりすきじゃない。日本人は友達が少ない。インドネシアだと、100人位の友人はすぐできる。日本では、気軽に個人的な事に口を出してはいけない。うるさいと思われる。人と人の関係が遠い。アパートの隣の人のもあまり知らない。日本人が友達を作るのは大変だが、インドネシアでは簡単」(大学生)

またインドネシア人留学生は、日本の男女関係・性別分業が厳しく、これも日本の人間関係の「閉鎖性」の一環と捉えている<sup>9)</sup>。

\*「講座の女の人と昼食に行った。他の学生が僕に『一緒に食べに行っただしょ、そういう事はしない方がいい』と言った。インドネシアなら、全然関係ない。自分も意識しない。日本ではダメみたい。日本人の友人の家に招待された。主人はいすに座った。奥さんは床に座った。私は奥さんに『いすに座って下さい』と言った。コーヒーを飲む時も、奥さんは自分の分を作らない。彼女は主人に『私も頂いていい?』と聞く。『何を飲もうか』と主人に聞く。主人が奥さんの飲むものを決めている。女は注ぎ役で飲まない。私が洗濯していると、先生が『男が洗濯できるのは珍しい』と言った。洗濯は女の仕事だと言う。私は、よく自分で洗濯する。先生は、結婚してから一度も洗濯したことがないと言った。あと、エレベーターに女の人が入りたがっているのに、男が先に入っていく。女の人が3回も乗り損ねた。インドネシアでは、女の人には力がないから、優先する。日本は、男女をはっきり分け、しかも男性の権力が強い。インドネシアは、男女こだわりなく、分ける時は女性をかばうため。これもインドネシアの方がオープンな感じがする」

最後に、マレーシア人就学生では、「裏表・本音と建前」、「希薄・疎遠」、「集団主義」のいずれも少ない。彼らは、まだ日本人どうしの人間関係について、あまりよくわからないと感じている。そして現時点でむしろ目につく点は、日本人の「性別分業意識」である。

\*「重男軽女。男権旺盛。ホームステイした時、奥さんはいつも働いている。夫は座っているだけ。夫は手伝わない。マレーシアは2人で一緒にやる。掃除とか、都合がいい人がだれでもする。日本の女性はいつも家にいる。毎日料理を作る。日本の男性は大男子主義。マレーシアの男性は妻に忠誠する」

#### 《補注》

- (1) 一部の中国人日本政府国費留学生には、一緒に来日している家族の日本語の問題もある。「子供は小学生だが、まだ日本語の問題がある」、「妻は来たばかりで日本語がわからないので苦労している」。
- (2) あるインドネシア人留学生は、「日本はスペシャリストが多い。一つの事をいつまでも極める。インドネ

## アジア人留学生・就学生の生活と文化変容 (3)

- シアでは、つまみ食いのジェネラリストが多い。私は、日本の考え方がいいと思う。一つの事を極めると、自動的にいろいろなことがわかってくる。またインドネシア人は、大学を出ると、皆、公務員になりたがり、物を作る仕事をやりたがらない。日本人は物を作ることに誇りをもっている」と語る。
- (3) ただし、上意下達については、マレーシア人の一部に肯定的な評価もある。「日本人は上司に服従し、反抗しない。マレーシア人は反抗が好き。道理がなくても反抗する。ここは日本人を見習うべき」。
- (4) 中国人には、日本の大学生について、大学での学習に注目して勤勉さを否定する意見と、アルバイトに注目して勤勉とする意見の双方がある。「日本の大学生は、入学前はすごく頑張るが、入学後、殆ど勉強しない。する人もいるけど、遊びだけの人も多い。暇があったら、なぜ専門以外の勉強をしないのか。英語とか、勉強する事はたくさんあるはず。それでいて、会社に入って、時間がなくなってから、英語を勉強したいと言って、学校に通っている。時間もお金ももったいない」、「日本の大学生は社会勉強でアルバイトする。それで働かないと生活できないということを知り、社会に出てまじめに働く」。
- (5) 日本人の「虚偽(水臭さ)」は、言い換えれば「個人の自立」でもある。「集団主義-没個性」は、「協調性」でもある。大学院で学ぶ中国人留学生には、こうした肯定的評価もある。「日本人は他人を頼らず、自分の事をちゃんとやる。他人に迷惑をかけない。中国も今、この方向に変わってきているが、まだまだ。今、考えると中国は互いに干渉しすぎる。中国は、どんな事でも自分の事と考える。他人は他人と考えず、何にでも口を出す」(日本政府国費)、「日本人の協調性は、企業・会社や経済発展にとってとてもやりやすい」(中国政府国費)、「日本の長所は、他人の噂話をしない。人の事は人の事、その人の自由と割り切っている。中国では人間関係が煩わしい」(文系私費)。また肯定・否定いずれの評価もせず、文化や社会システムの相違として指摘する例もある。「よその国にいったら日本人は『冷たい・曖昧』と誤解されるだろう。しかしそれは日本の文化だから悪いとはいえない。文化の違いであって、いい悪いではない」、「日本ではお金があれば何でもできるが、中国ではお金があっても、友人がいなければできないことがたくさんある。だから中国人は友人を大切にする。友人の友人とか、そういうつながりを大切に。これは社会背景の違いで、いいとも悪いともいえない」(日本政府国費)、「中国はコネ社会だから付き合いが大事。住宅不足・部屋不足だから家族との触れ合いも多くなる」(文系私費)。
- (6) 下記は、直接には中国人留学生と日本人の関係に関する事例だが、留学生側は、それを日本人の集団主義の現れと受けとめている。「友人の留学生が、夫の来日の事を保証人に頼んだ。でも、『中国人はたくさん日本にきて、帰らないからだめだ』と言われた。日本人は、個人・人間から出発して見ないで、中国人の一員と見る。日本人どうしの関係でも、まずどこの大学のどこの講座の学生か教員かとか、個人でなく集団から出発して付き合っているのをときどき感じる」(日本政府国費)。
- (7) ある韓国人留学生は、「先生と直接話ができないことがある。日本人の学生と相談すると、先生の耳に入ってしまう。研究をどうするか、何をやるかなど。こういう事をやってみたいとか。先生の好きなことじゃなきゃいえない。先生の権威が気になる」と語る。
- (8) あるインドネシア人留学生は、集団の規範についてこう語る。「子供が日本の保育園に入ると、何でも一緒にやろうとする。私が先に食べようとする『待って』。遊びも一緒。いつも集団」。
- (9) ただしあるインドネシア人留学生の女性は、「インドネシアにも、女は家みたいな考え方がある。私は仕事もしたいけど、もしどちらかを取るなら家庭を選ぶ」と語る。

## 第5章 留学生・就学生の社会認識の変容

本章では、留学生・就学生の社会認識とその変容を分析する(表5-1~6参照)。留学生・就学生は、来日後、母国と日本の社会を意識的・無意識的<sup>1)</sup>に比較し、双方の社会に対して新たな問題意識・社会認識を抱くに至っている。特に中国人の多くは、中国「社会主義」と日本「資本主義」の

2つの社会体制を経験し、また来日前後、天安門事件を経験している。これらは、母国社会のあり方を問い直す大きな契機となっている。

\*「自分の国を離れて初めて自分の国も見えてくる。いいことも悪いことも具体的に見えてくる。自分の国に何が足りないかもわかってくる。別の世界を見て、国の中にいるときより視野が広がる。中国はまだあまり旅行とかで外に出られない。だから、留学は貴重なチャンスだ。違う社会を経験して、自分の社会と比較できる。社会主義と資本主義を比較すれば、両方のいい面とか悪い面とかわかってくる。国の中から見ると、よそから見るとでは、情報の比較の程度が全く違う」(中国人・日本政府国費)

「日本にきて、自分の国に対する気持ち、来る前より、何かはつきりしてきた。天安門事件があったり、だんだん日本の社会のこともわかってきて、中国の社会をふり返ることも多かった。中国は社会主義、日本は資本主義。社会のシステムが全然違う」(中国人・中国政府国費)

「日本は経済が発展した国だから、そういう国とそうでない国はどう違うのか、どうやってそうなったのか、わかる。中国にいと世界の事はあまり見えない。日本で生活して、視野が広がる。国というのは地球の中では小さい。自国と他国を比べると、両方の事がよくわかる」(中国人・私費理系大学院生)

「自分の国にいたときは、いくら本とかあっても、やっぱり実際に他の国のことはわからない。自分の国を離れていると、自分の国のことを冷静に考えられる。特に日本のように東洋で短い間に他の先進国と並んだ所は、中国にとって有益だ。日本の経験を見て、中国はいい所を生かせる。中国を離れて初めて中国を認識・理解できた。中国にいたときは、あまりマスコミも詳しく報道しなかった。却って日本にきてから中国のこ

表5-1 大学院・大学生：日本社会認識

	その他変化の理由				来日前の日本のイメージ		来日後の変化		母国日本関係
	a	b	c	d	プラス イ その他	マイナス ハ その他	プラス ヘ その他	マイナス ニ その他	
中国 立政府 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中国 政府 国費	○	○	○	○	○	○	○	○	○
私費 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○
韓国 立政府 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○
韓国 政府 国費	○	○	○	○	○	○	○	○	○
韓国 私費 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○
インド ネシア 立政府 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○
インド ネシア 政府 国費	○	○	○	○	○	○	○	○	○
インド ネシア 私費 立大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○

補注：a=日本は「経済大国」で、みんな豊かな生活をしていると思う。b=日本の経済的豊かさは感じるが、改善すべき点も多い。  
c=基本的な生活のレベルは母国と変わらない。特に経済的に豊かとはいえない。  
d=日本人の生活は豊かではなく、日本が「経済大国」とは全く思わない。  
A=生活に精神的・時間的ゆとりがない。B=貧富の差が大きい。C=生活水準が低い。貧困。生活不安。D=輸入に依存。  
E=国際性・第三世界への援助精神がない。経済侵略。  
イ・ト=経済的繁栄、ロ・チ=勤勉・忍耐・まじめ、ハ=祖國侵略、ニ・ワ=経済進出・侵略、ホ=金銭重視・けち・利潤優先、ヘ=公共性・社会安定、リ=質素、ヌ=欧米偏向・アジア軽視、ル=侵略の歴史忘却、ヲ=人間関係希薄・個人主義  
実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

とも詳しく報道される。比較しないと、いい悪いはいえないから、いいチャンスだ。自分の体験を通して、中国のいい点、日本のいい点が両方わかった」(中国人・私費文系大学院生)

「外国にきて、自分の国を見直した。中国では、マスコミでも中国のいい所しか言わないから、却って本当にいい所がわからない。『また言ってる』という感じになる。日本でいろいろ体験して、また台湾の雑誌で中国批判の記事も読んだ。それは中国にいたら全然みたこともない。まるで騙されているようだ。そういういろんな見方に接して、中国のすばらしい所も欠点もわかってくる」(中国人・私費私立大学生)

「自分の国にいる時と、他の国に行ってから自分の国を見るのは全然違う。狭い世界ではだめ。いろいろ見ないと、視野が広くならない。日本にきて客観的に自分の国の事を言えるようになった。外から見ると、悪い面もちゃんと目に入る。中ではマスコミもいろんな作用を受けて正しく見れない。日本にきて、全く生活パターンが違う所で、韓国と日本を比較し、国にいた時には見たことも聞いたこともなかったような面に気がついた」(韓国入国費留学生)

表5-2 就学生・専門学校生・日本社会観  
来日前 a, b, c, d その他文化の理由・日本の問題 A, B, C, D, E, F, G の他

国	来日前	a	b	c	d	A	B	C	D	E	F	G
中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
韓国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マレーシア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

補注: a = 日本は「経済大国」で、なんでも豊かで文化的な生活をしている。b = 日本の「経済的豊かさ」は生活水準は母国と変わらない。c = 「経済大国」であるが、生活水準は母国と変わらない。d = 日本は「経済大国」ではない。e = その他、A = 生活に精神的ゆとりがない。B = 貧富の差が大きい。C = 生活水準が低い。D = 貧困・生活不安。E = 輸入に依存している。F = 文化水準が低い。G = 援助精神がない。F = 文化水準が低い。実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

### 第1節 「経済大国＝日本」からみた母国経済の諸問題

#### 第1項 日本の経済的繁栄

まず、留学生・就学生の多くは、来日前、「日本は経済大国で、皆、豊かで文化的な生活をしている」と考えていた<sup>2)</sup>。そして来日後、彼らの多くは、日本で「便利な生活」を体験する中で、日本の予想以上の経済的繁栄を実感・再認識している。なお、中国人の国費留学生・理系大学院私費留学生、及び、インドネシア人留学生は、来日前には日本の経済的繁栄への関心が相対的に希薄であったが、それだけに来日後、それを特に強く実感している。他方、中国人の理系大学院以外の私費留学生・就学生、韓国人留学生、マレーシア人就学生では、来日前から日本に経済的繁栄のイメージを強く持っており、来日後、それを実生活の中で再確認した者が多い。

\* 「日本の経済は、やはり非常に進んでいる。一応、来日前から経済大国とは聞いていたけど、実感はなかったから。来てみると、交通やサービスはいいし、街も奇麗だ。食も豊かで、電気製品もいっぱいあり、住宅も中国より非常にいい。貿易とかGNPの数字もあるが、やはり人々の生活の便利さで経済繁栄を実感した。経済力・技術力があり、中国より物質的に豊かで、生活レベルが高い」(中国人・日本政府国費)

「日本にきて、改めて経済大国なんだと思った。経済のレベルが中国より高い。物もたくさんあるし、金を出せば何でも買える。電機・車、皆、たくさん物もっている。品物の豊富さとか住宅も、日本の方がいい。環境も奇麗で、交通サービスもいい。全体として豊富・便利で、日本人は殆ど生活に不自由していない」(中国人・理系大学院私費)

「普通の日本人は、『私は豊かじゃない』というが、日本はやっぱり豊かな経済大国だ。街に行っても、誰が金持ちで、誰が貧乏人かわからない。貧乏人でも、いい服を着ている。日本は経済が発展しているから、福祉もいい。障害者のセンターとか、技術を教える施設とか。中国にもそういうものはあるが、まだ少ない。日本は交通も便利。バスも地下鉄も、わりと辺鄙な所でも駅がある。皆が電話や車をもって、便利に暮らし

ている。街も奇麗。豊かな社会、いい国であることは間違いない」  
 (中国人・文系大学院私費)

「日本人の友人は、日本人が皆、豊かな生活をしているわけではないと言う。でも、やはり日本は豊かな社会だ。中国の普通の生活を知れば、日本人がどんなに豊かで便利な生活をしているかわかるだろう。こんなに車や物が溢れている便利な社会で、豊かでないというのは間違っている」  
 (中国人・私立大学私費)

「来日後、やっぱり日本は経済大国だと思った。予想より、ずっと

生活も交通も便利。経済に余裕がある。日本では、お金があれば何でも手に入る。中国では、お金があっても、物が少ないから、買える物、買いたい物があまりない。日本は、ごみの中にも、使える電気製品がある。仕事が終わった後、遊ぶ所も豊富。日本の施設や日用品で、中国に紹介したい細々した便利な物が豊富にある」  
 (中国人・専門学校私費)

「日本にきて一番感じたのは、短い間に経済的にこんなに成長したのはなぜかということ。やっぱり日本は先進国で韓国は後進国、差が大きいと思った。日本は、国全体の経済水準が韓国より高く、最先端の所が多い。デパートやスーパーで何でも売っている。韓国にはない物も売っている。韓国にいた時、日本人は小さい家に住んでいると言われていたけど、そうでもない。割と広い。やっぱり日本は経済大国だ。今は日本が一番だと思っている」  
 (韓国人私費)

「来る前は半信半疑だったが、来日後、やっぱり日本は経済大国だと思った。バイトの給料もインドネシアに比べてすごく高い。皆、一定水準の生活ができています。アメリカでは黒人など失業者がたくさんいる。インドネシアも発展途上国だから、日本では考えられないひどい生活がある。どうして日本は、こんなに経済が進歩するのか知りたい。日本の自動販売機やキャッシュコーナーは本当に便利だ。日本なら、例えば弁当がほしいときも、電話一本で済む。これも、情報が行き届いてなければできない。日本は、お金があれば何でもできる。公共の施設もいい。バス・地下鉄など、何時になってもある」  
 (インドネシア人)

表5-3 大学院・大学生：母国社会の問題

母国	大学	私費	母国社会の問題				母国社会の長所
			経済 A,B,C,D	政治・自由 E,F,G,H	教育・精神・文化 I	その他	
中国	国立大学	①	×	×	×	×	国民統合
		②	×	×	×	×	国際交流弱い
		③	×	×	×	×	人口問題
		④	×	×	×	×	環境・人口問題
		⑤	×	×	×	×	人口問題
		⑥	×	×	×	×	人口問題
中国	私立大学	①	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
		②	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
		③	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
		④	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
		⑤	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
		⑥	×	×	×	×	生活安定・健康的な生活
韓国	国立大学	①	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		②	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		③	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		④	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		⑤	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		⑥	×	×	×	×	生活安定・社会主義
韓国	私立大学	①	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		②	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		③	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		④	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		⑤	×	×	×	×	生活安定・社会主義
		⑥	×	×	×	×	生活安定・社会主義
インドネシア	国立大学	①	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
		②	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
		③	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
		④	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
		⑤	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
		⑥	×	×	×	×	のんびり・ゆとり
インドネシア	私立大学	①	×	×	×	×	生活安定・伝統文化
		②	×	×	×	×	生活安定・伝統文化
		③	×	×	×	×	生活安定・伝統文化
		④	×	×	×	×	生活安定・伝統文化
		⑤	×	×	×	×	生活安定・伝統文化
		⑥	×	×	×	×	生活安定・伝統文化

注) A=経済的停滞、B=国営・競争欠如・大鍋飯、C=経済政策の不連続、D=貧富の差  
 E=民主主義の欠如、F=市民的自由の欠如、G=政治体制の問題、H=幹部の腐敗  
 I=教育水準の低さ、J=人間関係  
 実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

第2項 母国の経済的停滞とその原因

こうした日本の経済的繁栄の実感・再認識は、母国の経済的停滞の実感・再認識と表裏一体である。韓国人にはその関心は希薄だが、中国人・インドネシア人・マレーシア人の多くは、母国の経済的停

滞を再認識している。ただし、その経済的停滞の原因については、国籍・属性毎に多様な見方がある。まず中国人には、次の3タイプの見方がある。

第1は、中国経済停滞の主な原因を、国营企業優先と市場経済導入の遅れによる競争の欠如、及び、それに規定された、「大鍋飯」といわれる中国人の労働・生活規範に見いだすタイプである。これは、中国人留学生・就学生に最も多い意見だが、日本政府国費と私費の留学生に特に顕著である。なお文系大学院の私費留学生は、それに加えて国家の経済政策の不連続を指摘している。

\* 「中国は経済が悪いですね。中国人は仕事にふまじめだが、それは制度が悪いから。国营企業が多すぎる。国营では失業は怖くない。働かなくても働いても、平均主義の『大鍋飯』で給料は同じだから、やる気が出ない。日本人が皆まじめに働くのは、働かないとクビになるから。だから日本では、お客にサービスすることが自分のためにもなる。その方が、働く人の工夫ややる気を引き出し、発展する。

だから中国の一番の問題は共同所有と計画経済。皆のものといいながら、実際は誰のものでもなく、誰も責任をもたない。やっぱり、頑張れば報われるという事が大事。中国は、法律で個人の所有をちゃんと守っていないし、1人だけが金持ちになると皆が悪い目で見ると。だから、ある程度儲けたら、もうそれ以上儲けようとせず、発展しない。マルクスの理論はユートピアで、理想かも知れないが、どこにも存在しない。中国は、まだまだ開放が足りない。資本主義をもっと入れないと、個人的競争が少なく、発展しない」(日本政府国費)

「中国は資本主義経済を導入すべき。日本にきて、資本主義のいい面、経済管理がうまくいっていることがわかった。何でも国营というのは、雇われる人間が多すぎて、皆、働かない。中国は、スローガンは放つといて、資本主義は悪いとか言わないで、具体的に一步一步、資本主義を謙虚に勉強すべき。中国で社会主義の長所と言われていることは、だいたい日本にもある。中国の経済政策は連続性が足りない。計画経済と市場経済を行ったり来たり。国の経済政策の影響がとても強い。この数年の市場経済の発展はいいことだが、計画経済に戻そうという傾向もある。行政の指導者の移り変わりは当然だが、国の経済政策はあまり変えないで継承すべき。今までの中国は、その時の指導者によって経済政策が変わった。『忌憚のない批判をして下さい』と言われ、1年・半年たつと『ブルジョア自由化反対』」(文系大学院・私費)

「中国では、国营企業に優遇がある。例えば、国营企業では、病気になっても治療費は会社が出す。だから皆、小さい病気でも高い薬をもらう。また中国では経済が弱いから、交通も不便で切符がなかなか手に入らない。でも国营企業の人、本当は遊びでも、会社の出張の名目であちこち行く。こういう国营企業の特権というか、公務員の権力があるから、少し給料が悪くても、皆、国营から離れたがらない。自分で会社を営んでいる人も、国家機関・公務員に籍を置きたがる。でもこういうことは、結局、国にとって無駄。改善しないと、中国経済はいつまでも発展しない。企業の自主権の問題もある。経済特別区や三資(合弁・外資・

表5-4 留学生・専門学校生：母国社会の問題

国籍・属性	母国社会の問題											来日前の意見										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	長所	不明	a	b	c	d	e	f	g	h	i
中国 留学生	①											不明										
	②											不明										
	③											不明										
	④											不明										
	⑤											不明										
	⑥											不明										
	⑦											不明										
	⑧											不明										
	⑨											不明										
	⑩											不明										
日本 留学生	①										不明											
	②										不明											
	③										不明											
	④										不明											
	⑤										不明											
	⑥										不明											
	⑦										不明											
	⑧										不明											
	⑨										不明											
	⑩										不明											
文系 大学院 私費	①										不明											
	②										不明											
	③										不明											
	④										不明											
	⑤										不明											
	⑥										不明											
	⑦										不明											
	⑧										不明											
	⑨										不明											
	⑩										不明											
日本 大学院 私費	①										不明											
	②										不明											
	③										不明											
	④										不明											
	⑤										不明											
	⑥										不明											
	⑦										不明											
	⑧										不明											
	⑨										不明											
	⑩										不明											

注) A=経済的停滞、B=国营・競争欠如・大鍋飯、C=経済政策の問題、D=高物価、E=低技術、F=民主主義の欠如、G=市民的自由の欠如、H=政治体制の問題、I=官僚主義、J=権力偏在、K=教育水準の低さ、a=経済的發展、b=市場経済導入、c=民主主義、d=市民的自由、e=平等、f=伝統文化の保護、g=社会主義の維持、h=社会主義の維持、i=社会主義の維持、実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。

合作)は、共同所有の問題を、ある程度、解決する。企業の自主権を強めないと、職員の働く意欲が高まらない。もっと開放的に市場経済の競争を導入すべき」(文系大学院・私費)

「日本に来て、中国に対する見方はどうしても悪くなる。日本の経済発展の基準に順応したから、その目で中国をみると、どうしても不満が大きくなる。何といても不能率からくる経済の停滞。中国人は仕事にのんびりしすぎるが、これは制度の問題。経済制度を変えないと、人民の素質は変わらない。仕事をする人としての人が同じ給料をもらう平均主義は、よくない。仕事を自由に自分で選べるようにし、個人の企業をもっとやる方がいい。社会主義はやめるべき。社会主義は、人間の積極性を調達できないから、現代に合わない。何でも国営だと、どんなに努力・貢献しても、自分に見返りが伴わない」(専門学校生)

「日本にくと、やはり中国にも、日本と同じような経済発展、豊かな生活を一番望みたい。中国は本当に不便だ。日本にきて、ますます強く思うようになった。日本ではお金を出せば、いろんなサービスが買える。中国では、お金を出してサービスがよくない。中国はここを直すべき。日本ではジュースを注文してもサービスがいいし、電気洗濯機・電話・カラーテレビでもすぐ買える。中国では電話を申し込んでも、電気製品を買おうとしても、手続き・手続きで半年以上かかる。水道や部屋が壊れて修理を頼んでもなかなか来ない。こういう不便さは、経済の発達がただ遅れているのではなくて、制度の問題、市場経済の遅れが原因。もっと資本主義を入れるべき。以前は、中国は社会主義だから、誰でもご飯が食べられると聞いていた。でも、今、考えれば、貧富の差は中国にもあるし、日本にもご飯を食べられない人は多分いない。社会主義には特別のいい所はない。資本主義は、社会主義よりいい」(専門学校生)<sup>3)</sup>

「社会主義のいい所は『大鍋飯』?。でも、これは本当はよくない所。競争がなく、進歩がない。効率が低いので経済が発展せず、人民の生活レベルも高くない。サービスも悪い。社会主義のいい面は、今は思

表5-5 大学院・大学生:マスコミ接触と評価

国	機関	平均接触頻度		内容	興味をもっている記事・番組		日本のマスコミ(母国比較)	
		時間(日)	回数		ニュース	映画	A:B:C:D:E:F	その他
中国	国立政府	0	2	新聞	ニュース	専門関係・報道特集	偏向	国際性不足
		1.5	2	雑誌	ニュース	映画	過激	
		2	1	テレビ	ニュース	英語講座・中国映画	批判的・退廃的	
		2	1	ラジオ	ニュース	ハイテク・経済	無内容	
		2	1	その他	ニュース	映画	退廃的	
	私立費	0	2	新聞	ニュース	専門関係	偏向	
		0.5	0.5	雑誌	ニュース	映画	偏向	
		0.5	1	テレビ	ニュース	映画	局による差	
		0.5	1	ラジオ	ニュース	映画	チャンネル多い	
		0.5	1	その他	ニュース	映画	局による差・殺伐	
韓国	国立政府	0	2	新聞	ニュース	専門関係	局による差	
		0.5	0.5	雑誌	ニュース	映画	チャンネル多い	
		0.5	1	テレビ	ニュース	映画	局による差・殺伐	
		0.5	1	ラジオ	ニュース	映画	局による差	
		0.5	1	その他	ニュース	映画	局による差	
	私立費	0	2	新聞	ニュース	映画	局による差	
		0.5	0.5	雑誌	ニュース	映画	チャンネル多い	
		0.5	1	テレビ	ニュース	映画	局による差・殺伐	
		0.5	1	ラジオ	ニュース	映画	局による差	
		0.5	1	その他	ニュース	映画	局による差	
インドネシア	国立政府	0	2	新聞	ニュース	映画	局による差	
		0.5	0.5	雑誌	ニュース	映画	チャンネル多い	
		0.5	1	テレビ	ニュース	映画	局による差・殺伐	
		0.5	1	ラジオ	ニュース	映画	局による差	
		0.5	1	その他	ニュース	映画	局による差	
	私立費	0	2	新聞	ニュース	映画	局による差	
		0.5	0.5	雑誌	ニュース	映画	チャンネル多い	
		0.5	1	テレビ	ニュース	映画	局による差・殺伐	
		0.5	1	ラジオ	ニュース	映画	局による差	
		0.5	1	その他	ニュース	映画	局による差	

注)新聞=何紙読んでいますか。雑誌:英語=英語総合雑誌。A=連報性、B=報道の自由、C=多様な情報、D=事実を伝える、E=多様な意見、F=不正確。G=「日本社会理解に役立つもの」としてマスコミを挙げた者。実態調査より作成。プライバシー保護のため、ケースNOは表毎に不統一。



ないので発展しない。政府はジャワ島以外の所に農地を作って移民させているが、まだまだ。移民が多くなると地元の人が怒ったりする。日本は分配がうまくいっているの、うらやましい」

そしてマレーシア人就学生（中国系）は、母国の経済的停滞の原因を、商工業と科学技術の遅れに見いだしている。ここでは、イスラム教の影響や民族差別的な産業政策が念頭におかれている。

\* 「マレーシアは経済が悪い。給料が少なく、生活水準が低い。早く経済発展してほしい。商業と工業の発展がもっと必要だ。日本の商工業と技術の発展をもっと参考にすべき。マレーシアは、科学技術が落伍している。私は、国の宗教がムスリムだから、科学が発展しないと思う。それに、経済政策も政府がコントロールしていて、政府の中ではマレー人がパワーをもっているから、各民族の経済が自由に発展できない。中国人の商工業に政策的支えが少ない。マレーシアは、経済と科学の国になるべきだ」

## 第2節 母国の政治的諸問題

留学生・就学生は、来日後、日本の政治体制との比較、及び、国外から客観的に母国の政治を見直すことを通して、母国の政治体制に対する批判的見地をも培っている。ただしここにもまた、国籍・属性毎に認識の相違がある。

### 第1項 中国（1） - 権力の偏在・官僚制への批判 -

まず中国人の国費留学生・理系大学院の私費留学生は、政治的な問題意識が希薄である。彼らの一部は、確かに母国の政治状況に不満を感じている。しかしそれは、幹部の腐敗・権力の偏在・官僚制等の問題に限定されている。彼らの多くは、民主主義や市民的政治的自由の導入には慎重である<sup>4)</sup>。

\* 「リーダーが政策を決めるとき、よく調査しないで独断で現状に合わないことをしている。リーダーが人民に本当のことを聞いていない。そういうリーダーの腐敗が、学生運動（天安門事件）の一つの原因ですね。それに中国では公務員の権力が強い。権力がないと列車の切符も買えない。こういう制度を直さなければ。ただあの事件（天安門事件）で、学生の方の問題もわかった。中国のような大きな国では、自由選挙はできない。村のような下のレベルでは必要だけど、上のレベルでは、自由選挙をするとますます混乱する。要するに中国は、政治権力がある所では強く、ある所では弱く、無秩序状態」（日本政府国費）

「上の人の考え方に問題がある。特権階級のような人がいて、すべてその命令とコネで動いている。役人も、家柄とコネが一番大事。鄧小平の家族を見ればわかるが、もっと小さな鄧小平がいっぱいいる。こういう状態は、ちょっとやそっとじゃ直らない。日本とはシステムそのものが違う。個人の考えも、そういうシステムに嵌まっている。だから日本の制度を中国にもって行っても成功しない。個人の自由とかいくら取り入れても、うまくいかない。逆に中国人の問題は、コネとか権力を使って、個人的利益を考えすぎる。日本の集団主義を学ぶべき。日本人が自分の言いたいことを言っていたら、日本は今のように発展しなかった。言いたいことも言わず、我慢してきたから、発展したのだろう。『泣き寝入り』というんですか、昼間に辛いことがあっても我慢して、夜に一人で泣く。それが日本の発展を支えた。中国も、まだ経済発展が低いことから、ある程度、経済成長してベースができてから、言いたいことを言い合えばいい。自由選挙など早すぎる。今、実施したら個人の利権ばかり狙って、よけい混乱するだけ」（中国政府国費）

「中国の政治問題はあまりよくわからない。社会主義で問題はないと思う。今、東欧やロシアは、資本主義がいいと思っているかも知れないが、中国のような11億人もいる大きな国は社会主義の方がいい。社会主義と資本主義には、どちらにもいい面と悪い面がある。だから、両方のいい所を統一する事が大事だし、中国には社会主義の方が適した所も多い。日本人は仕事に積極的に生産力の発展にはいいが、でも、日本人が一生懸命働くのは、そうしなかったら、土地もないし、家族も養えないから。それに日本でも、もし自分の会

社がだめだったら、いくらまじめに働いてもだめ。中国では皆、国のものだから、生活の心配がない。もちろん、今の社会主義には問題もある。それは官僚主義。上から下への管理ばかり。これは、本当の社会主義ではない。民主自由と管理統制はどちらかを選ぶのではなく、両方が大事。今の中国政府はその両方を目指しているが、なかなか難しい。国も個人も努力するしかない」(理系大学院・私費留学生)

なお国費留学生は、来日後も『人民日報』を初めとする中国政府系のマスコミと継続的に接している。彼らは、日本のマスコミから影響を受けたとはあまり感じず、むしろ日本のマスコミは不正確で偏向していると感じている。こうした傾向は、中国政府国費留学生に特に顕著である。彼らは、来日後も母国関係のニュースに関心を限定し、日本のマスコミを特に否定的に評価している。これに比べ、日本政府国費留学生には、来日後、中国のみならず、日本や国際関連のニュースにも幅広く関心を持ち、日本のマスコミを、報道の自由・速報性等の面で肯定的に評価する者も少なくない。

\*「人民日報海外版は絶対読む。中国のラジオも30分位聞く。中国の本を読むのが楽しみ。日本のマスコミは事実と多少ずれていることがある。ニュースを一つずつ確かめることはできないけど、自分の信じられないことや低いレベルの噂は、ニュースとして扱わない方がいい。よく事情を知っている人はわかるけど、知らない人は信じてしまう。来たばかりの頃はよくわからなかったけど、今は僕は日本のニュースをあまり信じていない。湾岸戦争でもイラクを叩いて、おおげさに拡大する。中立じゃない。天安門事件の時もそうだ。日本のマスコミは早いのは早いけど、あまり確かめないうちに、拡大してやっている。僕は半分騙されたようなものだから。日本のマスコミは敏感すぎる。他の国の政治が悪いとか、日本の政治がどうだとか、いろいろ間違ったことを言い過ぎる。報道の自由とか受け入れる必要はない」(日本政府国費)

「人民日報海外版は配達されるので読む。中国の雑誌も国が自宅に送ってくれる。時々、中国領事館に行って小説を借りてくる。アメリカ向けの中国語の放送も聞く。中国のニュース・情勢は気になる。天安門事件の時は、毎日うちに早く帰ってテレビを見た。中国のニュースがあるかどうかでチャンネルを選ぶ。ただ、中国のことについては、日本のマスコミはよくない。我々と認識が違う。マスコミが中国のことを報道すると、中国に変なことが起きる。天安門事件もマスコミの報道の仕方がおかしい。小さいことを大きくおおげさに報道する。ニュースを作るためにやっている」(中国政府国費)

#### 【日本のマスコミに対する肯定的評価】

「日本のマスコミは情報が早い。何でもありのまま。いろんな出来事についての議論とか個人の意見とか、すごく自由に言える。私からみると、殆ど言いたいことを言っている。中国のマスコミはニュースが遅いし、自由に意見が言えない。国家に有利なように情報を変えたりする。日本は全部が政府のチャンネルじゃない。中国はみんな国のチャンネルだから」(日本政府国費)

## 第2項 中国(2) —市民的自由と政治的民主主義—

これに対し、文系大学院・私立大学・専門学校の中国人私費留学生、及び、中国人就学生<sup>5)</sup>では、来日前から自覚されていた中国における市民的自由と民主主義の欠如、政治体制の問題が、来日後、さらに強く再認識されている。

\*「中国は、政治制度をもっと民主的に柔軟にすべき。政治的民主と市民的自由が大事だ。資本主義の国は、選挙も自由だし、就職や情報の自由もある。特に天安門事件の後、今の政府は悪いと思う。天安門事件のようなことは避けないと、政府は国民から敬遠され、信用がなくなる。そうなったら、国民がかわいそうだ。政府も危なくなり、潰れるのも時間の問題だ。仲間達と一緒に、領事館に抗議に行った。中国政府は、もっと人間の個性、知識人を尊重してほしい。終身的な官僚は打倒すべきだ」(文系大学院生)

「民主・自由の問題がある。就職・言論・国民の自由。政治の専門家でない人にとって、やっぱり自分自身の自由が一番の関心だ。中国では、こんな仕事がしたいと思っても、国で決まっていけないことが多い。

中国は封建制のようなものだから、まず民権が一番重要だ。高校生時代、(文化大革命の)4人組を粉砕してから、自由・民主を考えるようになった。国の指導部が変わってほしい。もっと民主の中国になればいい。来日直前に天安門事件があり、来日後、事件について留学生や日本人からいろいろ聞いた。日本で自由な社会も経験した。それで、来日後、ますます強くそう思うようになった」(私立大学生)

「中国には民主主義がない。国民の自由がない。日本なら、どんな仕事でも、自分の好きな仕事ができる。もし今の仕事が嫌いなら、すぐやめられる。中国はだめ。嫌いでもチェンジできない。言論の自由もない。こういう不満をもつようになったのは、来日後、天安門事件の影響もある。日本に来る前は、私の家はいい家だったし、日中の比較もしなかったから、特に不満は感じなかった。満足していた。日本に来てから、問題がいっぱいあることがわかった。政治体制や官僚制など。中国は、とにかく変わる方がいい。まず政治制度を変えなければ。人民に自由をあげるべき。自由にしても、何も悪くならないと思う。経済の発展・繁栄も、政治制度によって変わる。大きな問題は政策の問題だから。それも、来日後、わかった。来日前は、社会主義維持の教育を受けてきた。今は、いろいろな人と会って、民主主義政治制度の中に資本主義もあることがわかった。それで資本主義を導入すべきと考えるようになった」(専門学校生)

「中国は民主の方向・潮流に従い、人民生活に自由をもっと与えるべき。自由とは、まず仕事の選択の自由、それから住宅と言論の自由。中国では、やりたい仕事がやれない。言いたいことも言えない。日本なら、首相がよくないとか、自由に意見が言える。中国ではそんなことはだめ。逮捕される。大学の授業でも、私達の意見は出せない。授業の中で何か話して、それが国家政策に反したら、ひどい目にあう。来日前はあまりわからなかったが、日本にきてから、観察・比較すると、そうだ」(大卒専門職出身就学生)

「中国には、言論や仕事選択の自由がない。国民に自由があれば、やりたいことを發揮して、もっと発展できる。日本なら、自分の好きな事があれば何でもできる。中国もそうなればいい。それと多党制の問題。もっと自由で民主的な中国を建立すべき。天安門事件の後、もっと感じる」(高卒労働者出身就学生)

なお彼らは、現実の生活や社会関係のみならず、日本のマスコミからも多大の影響を受けたと感じている。彼らは、日本のマスコミに対して、その速報性・事実の報道・多様な観点からの情報、そしてそれらを支える報道の自由の面で肯定的に評価している<sup>6)</sup>。

\* 「日本のマスコミは報道が早い。誰にでもすぐに知らせる。ありのままで真実感がある。それに客観的に事実を伝えるし、いろんな形で豊富で多彩。いろいろ工夫している。例えば、海外派兵の国会論争まで報道する。総理大臣がだめだとか、俺だったらそういうことはやらないとか、何をしゃべっても自由。これはいい。中国は指導部の中での論争は放送しない。中国は遅くて単調で、秘密が多い」(文系大学院生)

「日本の報道は真実で信じられる。自由で詳しく、開放が進んでいる。本気の言葉を話す。中国の報道は不自由なので、信じられない。社会主義のための国の宣伝、政治の味付けで嘘が多い。いろいろ制限がある。1+1が2ではなく、3にも4にもなる。国にとって悪い事は隠して、いい事だけ、国の利益になる事だけを報道する。または、初めから、これはよくない事ですとか、決めつけて報道する。日本はナマですぐ報道するが、中国は加工している。だから日本では、ニュースに関心が高くなる」(専門学校生)

「日本のニュース報道は早い。内容が広い。形式が中国より多い。事実を客観的に報道する。中国は政治中心だから、ニュースも必ず政治と関係する。日本は自由で、たくさんの意見が反映できる。日本のマスコミは自分の意志をもっている。例えば、NHKと東京、それぞれ特色、自分の意見を豊かに出す。中国では中央台とか上海台とかあるが、どれも立場は同じ。日本は本当のこと、事実を言っている。中国は本当じゃない。政府に指定された事だけ、中国のいい事だけ、外国の悪い事だけ知らせる」(就学生)

### 第3項 韓国 —政治的不安定と南北統一—

韓国人留学生は、母国の学生運動に対して賛否両論を含みつつ、総じて、日本との比較で、母国の

政治的不安定・民主化の遅れを再認識している。また固有の政治課題として南北統一を指摘している。

\* 「韓国には政治問題がいっぱいある。一つは南北統一の問題。それと政治後進国で、大統領選挙をして20年ぶりに平和的政権がたったけど、野党が分裂してしまった。民主化が見かけだけ。今まで一生懸命闘ってきたことが無駄になってしまう。民主主義のためには、国民がちゃんと人権意識をもって、下から作っていかなくちゃ。今まで民主化をなしとげたのも、下からの国民勢力が自覚をもったから。今まで政治運動をやってきた人だけでなく、一般の人達も参加して政権に圧力をかける意識改革が必要」

「韓国は政治が不安定。学生のデモが多いのが問題だ。紳士的に議論・対話すべき。大統領は軍人・独裁で、民主化ではない。大学生はデモばかりで勉強しない。政治が不安定で、トップの4人の政治家が遊んでいる。日本みたいに文民の国際政治中心の国になればいい。それと朝鮮半島統一の問題がある」

彼らは、来日後、日本のマスコミと政党との関係が希薄なことに、母国との違いを見いだしている。そして、「だからマスコミが自由で信頼できる」という肯定的評価と、逆に「本質的な政治批判が弱く、興味本位に偏って中立性に欠ける」という否定的評価が、諸個人の内部でも輻輳している。

\* 「韓国の放送局には、政府・政党の影響がある。日本では、あの放送局は政府と通じているとか、そういう見方が通用しない。だから韓国に比べ、日本のマスコミは自由。自分で判断して、言いたい事を何でも言う。自由だからこそ、新聞や放送局によって偏りがある。もっと中立であるべき。例えば、日本のマスコミは、韓国の細かいニュースまで報道しすぎる。政治家の細かい争いなど報道しなくてもいい」

「韓国では、新聞は与党よりか野党よりかはっきりわかる。報道が、最初から主張をもっている。また北朝鮮についての韓国の報道は、信頼できない。日本のマスコミは、けっこう中立的で事実を報道している。でもそれだけに、日本は政治が安定していることもあって、マスコミが政府を厳しく批判しない」

#### 第4項 マレーシア - 民族問題 -

マレーシア人(中国系)就学生は、日本との比較で、マレーシアの民族問題の複雑さを再認識し、また民族問題に関する自由の欠如を実感している。彼らは、ニュースにはあまり関心をもっていないが、一部に民族問題を例に、日本の報道の自由を肯定的に評価する意見がある。

\* 「マレーシアは、マレー人・中国人・インド人の3大民族の国。政府はマレー人だけを大切に、他の民族に関心をもたない。政府の中では、マレー人が70%以上。他の民族は政治的に無力。各民族が平等になるべき。この問題については、言論の自由もない。もしマレー人の悪口を言うと、後で危ない。牢屋に2年も入れられるかも知れない。マレー人でも、無能な者は政治から去れ。マレーシアでは民族毎に思想が違うので、みんなが団結できない。そこが日本と違う。僕は、日本は皆、同じだから、差別がない社会と思う。日本は言論自由で報道快速。マレーシアには、言論討論が禁止されている民族問題があるので制限がある。日本は本当に自由な言論の国だ」

なお、インドネシア人留学生は、来日前後を問わず、政治的問題意識が希薄で、ニュースにも関心が薄い。ただ、彼らは来日後も母国や欧米のマスコミと接している。そして、日本のマスコミに対し、一方で、母国に比べ、報道の自由があると肯定的に評価しつつ、他方で、どのメディアも結局同じ事しか報道せず、政治批判もないので、日本も母国も変わらないという否定的評価も見られる。

\* 「衛星放送で英語の番組を見る。インドネシアの週刊誌も送ってもらう。『タイム』も以前、買っていた。インドネシアと比べ、日本はとても自由。政府が干渉しない。インドネシアだと、もし大統領の家族のことで批判めいたことを書くと、その会社は潰される。日本は政府の政策にも自由に意見が言える。インドネシアは政府のテレビだけだから、まだそこまで行っていない」

「日本は自由は自由だが、でも朝日にも読売にも毎日にも同じことしか載っていない。写真まで似ている。

まるで同じ会社みたい。だからいくら日本が自由だといっても、結局、政府よりか、アンチかの区別は、日本もインドネシアも実際には似たようなもの」

#### 《補注》

- (1) 中国人国費留学生には、意識的には日中社会の比較や考察をしていない者もいる。「忙しいから、別に日本社会について知りたいとは思わない。今まで学校の中ばかりいたから、日本の社会がどうなっているかわからない」(日本政府国費)、「日本理解とか、あまり考えないようにしている。私はジャーナリストではないのだから」(中国政府国費)、「日本社会に問題があっても、改善すべきというのは偉そう。外国人に日本の文句を言う資格はない。お客さんのだから」(中国政府国費)。しかしそれでも彼らが無意識のレベルも含め、実際には日中社会の比較・考察をしている事は、本文中で示した通りである。
- (2) 中国人国費留学生・理系大学院私費留学生等、もともと日本以外への留学希望者の一部には、こうしたイメージすらもっていなかった者もいる。「来日前は、日本についてあまり印象はなかった。経済大国とも知らなかった。知りたかったのは欧米のことで、日本にはあまり興味がなかった」。
- (3) 中国の経済効率の低さについて、ある専門学校生は、「日本の会社に勤める兄が仕事で一時帰国した。仕事に1日、往復2日、計3日ですむ仕事だった。でも、出国証明書が必要という事で、公安局に長い間並び、やっと着いたら、1日でも滞在したら在留登録が必要と言われ、もう一度やり直しになった。結局、いろんな手続きで1週間もかかった。39度の暑の中で、無意味な行列で時間をつぶした」と語る。
- (4) ただし、国費留学生や理系大学院私費留学生の一部にも、中国における民主・自由の欠如を批判する意見はある。「中国には政治制度の問題がある。日本は戦後、アメリカと同じ制度を作った。でも中国は民主化してない。独裁権力がある。例えば、鄧小平は、実際の肩書はあまりないが、権力は誰より大きい。中国には言論の自由もない。人間である以上、誰でもこれをやりたいということをもっているだろう。でも中国では、それをもっているとだめ。平等でないとされる。これは変だと思う。どうすればいいかは、言えないんですよ」(日本政府国費)、「天安門事件の前には、いろいろ希望をもっていた。民主主義の不完全など基本的な制度全般に問題がいっぱいある。もっと民主化すべき。若い人に自由にやらせてくればいいのか。去年、天安門事件の時は、皆と一緒にいろいろやって楽しかった」(中国政府国費)。
- (5) 就学生の中でも、大卒専門職出身者と高卒労働者出身者では一定の差がある。即ち大卒専門職出身者は、何よりもまず政治問題、特に市民的自由と民主主義の欠如に強い関心がある。彼らは、来日前は主に政治的民主主義の欠如を感じていたが、来日後、市民的自由の欠如を、より強く感じている。これに対し、高卒労働者出身者は、中国の経済的停滞にむしろ関心が強く、政治的関心は2次的である。また彼らは個人の市民的自由の欠如には敏感だが、政治的民主主義の問題は来日後も含め、それほど切実には感じていない。
- (6) ニュースの関心の幅には、私費留学生・就学生の中でも差がある。即ち、大学院生は日本・中国・国際全般のニュースに幅広く関心をもっている。他方、私立大学・専門学校生は日本と中国関係に、そして就学生は中国関係のニュースに、関心がそれぞれ限定されている。